

## ＜第3章 調査の集計結果＞

### その2

教育について

県政の重要度と満足度について

5-A. 子どもの教育(学校)について

(1) 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状

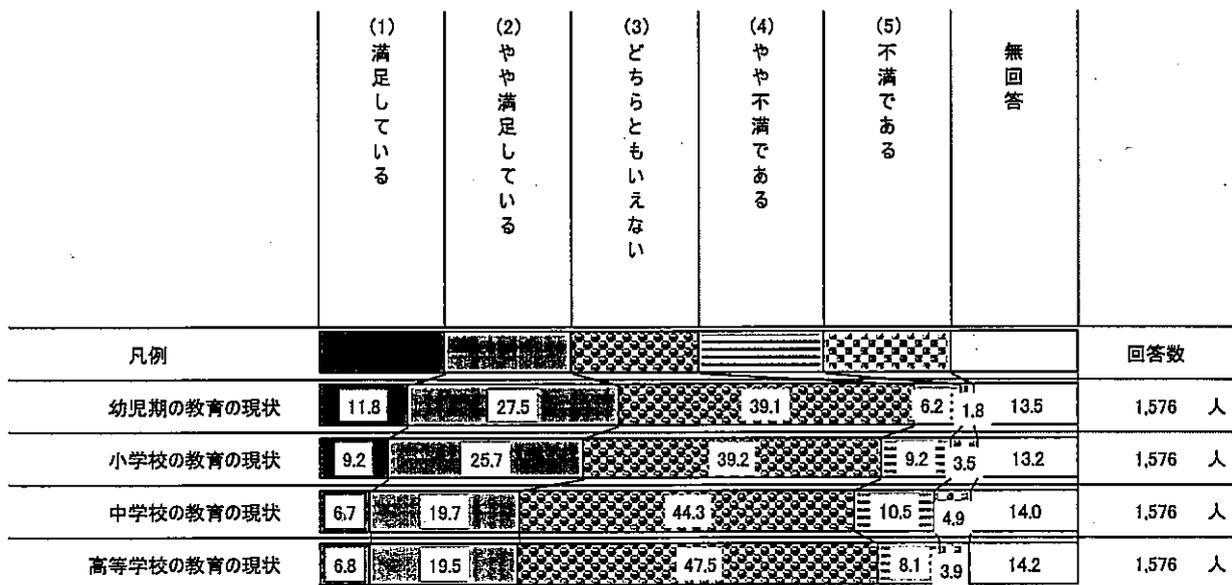
問24 幼児期の教育、小学校の教育、中学校の教育、高等学校の教育の現状についてどう思いますか。それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

項目	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
幼児期の教育の現状	11.8	27.5	39.1	6.2	1.8	13.5
小学校の教育の現状	9.2	25.7	39.2	9.2	3.5	13.2
中学校の教育の現状	6.7	19.7	44.3	10.5	4.9	14.0
高等学校の教育の現状	6.8	19.5	47.5	8.1	3.9	14.2

幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状について、「満足している」+「やや満足している」を合わせた『満足している』は「幼児期の現状」(39.3%)が最も多くなっている。

図表 5-A-(1)-1 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状



グラフ単位: (%)

幼児期の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(38.2%)、『女性』(40.5%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(28.0%)、『女性』(27.8%)が続いている。「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】は男女ともに「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が半数を超え最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多く、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 5-A-(1)-2 幼児期の教育の現状

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		回答者数(人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位:比率(%)								
全体		1,576	11.8	27.5	39.1	6.2	1.8	13.5
性別	男性	765	12.0	28.0	38.2	8.0	1.8	12.0
	女性	770	11.9	27.8	40.5	4.4	1.8	13.5
年齢別	20~29歳	79	22.8	21.5	44.3	3.8	1.3	6.3
	30~39歳	139	16.5	30.9	42.4	6.5	1.4	2.2
	40~49歳	199	14.1	32.7	39.2	6.0	2.5	5.5
	50~59歳	263	10.6	25.5	43.7	10.3	1.9	8.0
	60~69歳	405	8.4	26.9	43.0	7.7	3.0	11.1
	70歳以上	449	11.8	28.1	31.6	3.1	0.7	24.7
職業別	農林漁業	118	16.9	33.9	28.8	5.1	-	15.3
	商工業、サービス業、自由業など	189	12.2	29.1	38.6	6.3	5.8	7.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	12.8	28.3	44.2	7.5	1.6	5.5
	主婦・主夫	302	11.9	26.8	37.7	4.3	1.0	18.2
	無職	351	9.4	24.8	37.9	6.0	1.4	20.5
圏域別	高松圏域	763	11.9	27.3	39.6	7.6	1.6	12.1
	東讃圏域	145	8.3	27.6	44.8	5.5	3.4	10.3
	小豆圏域	44	6.8	36.4	40.9	2.3	2.3	11.4
	中讃圏域	432	13.0	26.2	38.0	4.9	1.2	16.9
	西讃圏域	192	12.5	29.2	35.4	5.2	3.1	14.6
居住年数別	3年未満	104	13.5	23.1	43.3	7.7	1.9	10.6
	3年以上~10年未満	164	15.2	24.4	42.7	6.7	1.8	9.1
	10年以上~20年未満	223	12.6	27.8	41.3	7.6	1.8	9.0
	20年以上	1,034	11.3	29.0	38.1	5.6	1.8	14.1

小学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(36.7%)、『女性』(41.9%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(27.1%)、『女性』(24.9%)が続いている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 5-A-(1)-3 小学校の教育の現状

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		回答者数(人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	9.2	25.7	39.2	9.2	3.5	13.2
性別	男性	765	9.5	27.1	36.7	11.4	3.7	11.6
	女性	770	9.1	24.9	41.9	7.4	3.2	13.4
年齢別	20～29歳	79	19.0	21.5	44.3	6.3	2.5	6.3
	30～39歳	139	6.5	25.2	48.9	11.5	5.8	2.2
	40～49歳	199	11.6	30.2	34.7	14.6	4.0	5.0
	50～59歳	263	9.1	21.3	46.0	12.2	4.6	6.8
	60～69歳	405	4.9	26.9	43.5	9.4	3.7	11.6
	70歳以上	449	11.8	26.7	30.1	5.3	1.8	24.3
職業別	農林漁業	118	14.4	29.7	32.2	5.1	2.5	16.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	7.4	21.2	45.5	11.1	6.3	8.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	8.4	29.4	41.7	11.9	3.4	5.2
	主婦・主夫	302	10.3	24.8	38.4	7.3	2.3	16.9
	無職	351	9.7	22.8	36.2	7.7	3.1	20.5
圏域別	高松圏域	763	9.7	24.8	41.0	10.0	3.1	11.4
	東讃圏域	145	5.5	26.9	42.1	10.3	5.5	9.7
	小豆圏域	44	9.1	22.7	47.7	4.5	2.3	13.6
	中讃圏域	432	9.3	26.9	35.0	8.6	3.7	16.7
	西讃圏域	192	9.9	26.6	37.5	7.8	3.1	15.1
居住年数別	3年未満	104	10.6	24.0	41.3	12.5	1.0	10.6
	3年以上～10年未満	164	9.1	21.3	45.1	10.4	5.5	8.5
	10年以上～20年未満	223	9.0	29.1	36.8	12.1	4.0	9.0
	20年以上	1,034	9.4	26.2	39.0	8.3	3.2	13.9

中学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(40.7%)、『女性』(48.7%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(20.9%)、『女性』(18.8%)が続いている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『70歳以上』が最も多くなっている。『30～39歳』では満足度が2割にも満たない結果となっている。『30～39歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『東讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 5-A-(1)-4 中学校の教育の現状

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		回答者数(人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位:比率(%)								
全体		1,576	6.7	19.7	44.3	10.5	4.9	14.0
性別	男性	765	7.1	20.9	40.7	13.3	5.6	12.4
	女性	770	6.5	18.8	48.7	7.8	4.2	14.0
年齢別	20～29歳	79	11.4	19.0	46.8	7.6	8.9	6.3
	30～39歳	139	3.6	12.9	60.4	10.8	7.9	4.3
	40～49歳	199	7.5	23.6	44.2	10.6	8.0	6.0
	50～59歳	263	7.2	16.3	49.0	15.6	4.9	6.8
	60～69歳	405	3.7	18.8	48.1	12.8	4.4	12.1
	70歳以上	449	9.1	23.2	34.3	6.0	2.2	25.2
職業別	農林漁業	118	11.9	23.7	34.7	10.2	2.5	16.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	6.3	14.8	49.7	11.1	9.0	9.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	5.7	20.5	49.0	13.7	4.8	6.2
	主婦・主夫	302	6.6	19.5	45.0	8.3	3.0	17.5
	無職	351	7.4	19.9	39.3	7.4	5.1	20.8
圏域別	高松圏域	763	7.5	18.6	45.7	10.6	5.5	12.1
	東讃圏域	145	4.8	22.8	44.1	12.4	4.1	11.7
	小豆圏域	44	6.8	18.2	54.5	4.5	2.3	13.6
	中讃圏域	432	6.0	20.4	39.8	10.9	5.3	17.6
	西讃圏域	192	6.3	20.3	46.4	8.9	3.1	15.1
居住年数別	3年未満	104	7.7	14.4	52.9	8.7	4.8	11.5
	3年以上～10年未満	164	4.9	9.8	56.7	11.0	7.9	9.8
	10年以上～20年未満	223	6.3	24.7	38.6	13.0	8.5	9.0
	20年以上	1,034	7.1	21.0	43.6	10.2	3.6	14.6

高等学校の教育の現状について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、『男性』(45.2%)、『女性』(50.8%)となっており、これに「やや満足している」『男性』(20.1%)、『女性』(19.1%)が続いている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、【満足している】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、【満足している】は『農林漁業』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、【満足している】は『東讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、【満足している】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 5-A-(1)-5 高等学校の教育の現状

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		回答者数(人)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
単位: 比率(%)								
全体		1,576	6.8	19.5	47.5	8.1	3.9	14.2
性別	男性	765	7.1	20.1	45.2	10.8	4.3	12.4
	女性	770	6.6	19.1	50.8	5.5	3.4	14.7
年齢別	20～29歳	79	13.9	25.3	41.8	7.6	5.1	6.3
	30～39歳	139	5.8	10.8	62.6	8.6	7.2	5.0
	40～49歳	199	6.5	22.6	52.8	5.5	5.5	7.0
	50～59歳	263	6.1	18.6	50.6	13.7	3.4	7.6
	60～69歳	405	4.4	17.3	52.8	9.6	3.2	12.6
	70歳以上	449	8.9	22.3	36.7	4.7	2.7	24.7
職業別	農林漁業	118	12.7	22.0	39.8	6.8	2.5	16.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	6.3	15.3	50.8	9.0	8.5	10.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	5.9	20.5	53.3	10.7	3.2	6.4
	主婦・主夫	302	7.6	18.9	47.4	4.3	3.0	18.9
	無職	351	6.6	19.7	41.9	7.7	3.1	21.1
圏域別	高松圏域	763	8.0	17.7	49.9	7.7	4.1	12.6
	東讃圏域	145	7.6	20.7	48.3	7.6	4.8	11.0
	小豆圏域	44	4.5	22.7	56.8	4.5	2.3	9.1
	中讃圏域	432	5.1	22.0	41.9	8.8	4.2	18.1
	西讃圏域	192	5.7	19.3	47.4	9.4	2.6	15.6
居住年数別	3年未満	104	9.6	13.5	49.0	10.6	3.8	13.5
	3年以上～10年未満	164	4.9	8.5	59.1	11.6	5.5	10.4
	10年以上～20年未満	223	6.3	23.8	45.7	8.1	5.8	10.3
	20年以上	1,034	7.2	20.9	46.8	7.4	3.1	14.6

(2) 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問25 幼児期の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	51.8%
2	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6%
3	きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9%
4	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2%
5	道徳心や社会性を育てること	42.2%
6	情操・感性を育てること	16.1%
7	創造力を育てること	14.5%
8	体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7%
9	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4%
10	その他（具体的に： （無回答）	0.8% 5.5%

幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(51.8%)が最も多く、次いで「きちんとした「しつけ」を行うこと」(47.9%)、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」(43.2%)、「道徳心や社会性を育てること」(42.2%)などとなっている。

図表 5-A-(2)-1 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

	100.0	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 遊びを中心とした様々な経験を積ませること	51.8	817 人
(2) 文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6	215 人
(3) きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9	755 人
(4) 「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2	681 人
(5) 道徳心や社会性を育てること	42.2	665 人
(6) 情操・感性を育てること	16.1	254 人
(7) 創造力を育てること	14.5	229 人
(8) 体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7	327 人
(9) 地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4	416 人
(10) その他	0.8	13 人
無回答	5.5	86 人

グラフ単位：(%)

幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、『男性』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」(55.7%)が、『女性』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(52.3%)が最も多く、これに『男性』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(51.6%)が、『女性』では「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」(48.3%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が半数を超え最も多く、『60～69歳』、『70歳以上』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。『50～59歳』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」、「きちんとした「しつけ」を行うこと」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。そのほかの圏域では「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「きちんとした「しつけ」を行うこと」が半数を超え最も多くなっている。そのほかでは「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」が半数を超え最も多くなっている。

図表 5-A-(2)-2 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数(人)	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	きちんとした「しつけ」を行うこと	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	道徳心や社会性を育てること	情操・感性を育てること	創造力を育てること	体力をつけ、たくましさを養うこと	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	その他	無回答
単位:比率(%)													
全体		1,576	51.8	13.6	47.9	43.2	42.2	16.1	14.5	20.7	26.4	0.8	5.5
性別	男性	765	51.6	14.9	55.7	38.4	45.1	15.2	15.3	20.0	24.6	0.9	3.5
	女性	770	52.3	12.6	40.6	48.3	39.6	17.7	13.6	22.3	28.4	0.8	6.2
年齢別	20～29歳	79	77.2	29.1	30.4	39.2	40.5	11.4	12.7	19.0	26.6	-	3.8
	30～39歳	139	66.2	16.5	30.9	44.6	40.3	15.8	22.3	17.3	37.4	0.7	0.7
	40～49歳	199	55.3	18.1	45.7	40.2	46.7	20.1	17.6	16.1	29.6	1.0	1.5
	50～59歳	263	51.0	12.9	51.0	45.2	43.3	19.8	16.0	20.2	27.0	1.1	2.3
	60～69歳	405	50.9	9.9	52.6	44.4	44.2	14.3	16.8	22.2	26.2	1.2	3.2
	70歳以上	449	43.4	12.5	51.9	43.2	39.4	15.4	8.0	24.7	21.8	0.4	10.7
職業別	農林漁業	118	52.5	16.1	48.3	48.3	39.8	13.6	7.6	21.2	28.0	2.5	4.2
	商工業、サービス業、自由業など	189	51.9	12.7	54.0	39.7	41.3	13.8	19.6	22.2	26.5	0.5	4.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	56.0	15.3	46.3	44.0	46.0	18.5	15.7	16.8	31.2	0.7	1.6
	主婦・主夫	302	48.7	10.9	46.4	46.7	44.7	15.9	11.3	23.5	23.8	1.0	6.3
	無職	351	48.1	13.4	49.3	39.6	36.2	16.0	15.1	25.1	21.4	0.6	8.8
圏域別	高松圏域	763	51.5	13.8	48.9	42.9	45.3	18.0	14.2	22.0	24.9	0.5	4.5
	東讃圏域	145	49.7	19.3	52.4	37.2	39.3	13.8	15.2	22.8	26.9	0.7	4.8
	小豆圏域	44	61.4	15.9	56.8	50.0	36.4	13.6	11.4	18.2	27.3	-	2.3
	中讃圏域	432	50.5	11.3	44.7	44.0	41.9	15.7	16.7	17.4	28.2	1.4	6.7
	西讃圏域	192	55.7	13.5	45.8	45.8	33.9	12.0	11.5	22.4	27.6	1.0	7.8
居住年数別	3年未満	104	55.8	18.3	47.1	39.4	46.2	23.1	14.4	17.3	20.2	-	3.8
	3年以上～10年未満	164	63.4	17.7	33.5	40.9	45.7	15.9	19.5	15.9	29.3	1.2	4.3
	10年以上～20年未満	223	56.5	13.5	43.9	47.1	43.0	18.8	18.8	18.8	27.4	0.9	1.8
	20年以上	1,034	49.0	12.6	51.6	43.7	41.4	15.3	12.7	22.9	26.8	0.9	5.4

(3) 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問26 小学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	60.1%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	43.1%
3	道徳教育の充実	38.3%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4%
5	健康な体づくりと体力の向上	38.1%
6	学力・学習意欲の向上	18.1%
7	体験活動の充実	15.4%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7%
10	障害のある児童への支援	9.6%
11	その他（具体的に： （無回答）	1.0% 4.7%

小学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「基礎的・基本的な学力の習得」(60.1%)が最も多く、次いで「基本的な生活習慣・規律の確立」(43.1%)、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(41.4%)、「道徳教育の充実」(38.3%)などとなっている。

図表 5-A-(3)-1 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

	割合	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	60.1	947 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	43.1	679 人
(3) 道徳教育の充実	38.3	604 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4	653 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	38.1	600 人
(6) 学力・学習意欲の向上	18.1	286 人
(7) 体験活動の充実	15.4	243 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5	103 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7	122 人
(10) 障害のある児童への支援	9.6	152 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	4.7	74 人

グラフ単位：(%)

小学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「基礎的・基本的な学力の習得」が最も多く、その比率は『男性』(58.8%)、『女性』(61.6%)となっており、これに『男性』では「基本的な生活習慣・規律の確立」(44.3%)が、『女性』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(44.0%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『20～29歳』、『70歳以上』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかの年齢では「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

職業別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかの職業では「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『高松圏域』、『小豆圏域』では「基本的な生活習慣・規律の確立」が、『中讃圏域』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、『西讃圏域』では「健康な体づくりと体力の向上」が、『東讃圏域』では「道德教育の充実」、「健康な体づくりと体力の向上」が同率で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多く、これに『3年以上～10年未満』では「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が、そのほかでは「基本的な生活習慣・規律の確立」が続いている。

図表 5-A-(3)-2 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		回答者数(人)	基礎的・基本的な学力の習得	基本的な生活習慣・規律の確立	道徳教育の充実	止いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	健康な体づくりと体力の向上	学力・学習意欲の向上	体験活動の充実	国際的な視野を獲得する機会の充実	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	障害のある児童への支援	その他	無回答
単位:比率(%)														
全体		1,576	60.1	43.1	38.3	41.4	38.1	18.1	15.4	6.5	7.7	9.6	1.0	4.7
性別	男性	765	58.8	44.3	42.1	39.6	39.2	20.4	14.8	5.9	8.9	8.0	1.3	3.3
	女性	770	61.6	42.2	34.7	44.0	37.3	16.4	16.5	7.3	6.9	10.9	0.6	5.3
年齢別	20~29歳	79	64.6	39.2	36.7	49.4	27.8	24.1	25.3	6.3	7.6	7.6	1.3	2.5
	30~39歳	139	71.9	39.6	36.0	38.1	36.7	18.7	28.8	7.2	7.2	7.2	0.7	0.7
	40~49歳	199	62.8	41.2	40.7	40.7	35.7	27.1	16.1	7.5	5.0	8.5	2.0	1.5
	50~59歳	263	60.8	49.0	41.8	35.7	41.8	17.1	16.3	7.2	9.1	7.2	0.8	2.3
	60~69歳	405	57.5	47.9	38.0	45.9	39.5	16.0	14.8	7.4	8.6	10.4	1.2	2.2
	70歳以上	449	56.8	38.5	36.5	41.6	38.8	16.3	10.2	5.1	8.0	11.4	0.7	9.8
職業別	農林漁業	118	59.3	37.3	33.1	42.4	40.7	23.7	15.3	4.2	11.9	7.6	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	63.0	47.1	38.6	43.9	34.4	20.1	16.4	11.1	7.4	6.9	-	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	62.9	47.1	41.7	38.0	39.9	19.6	18.9	5.9	7.3	8.0	1.4	1.2
	主婦・主夫	302	63.6	39.4	36.4	43.7	38.1	12.6	14.6	6.3	7.3	12.9	1.0	6.0
	無職	351	53.0	41.0	36.8	44.4	37.6	19.4	10.8	6.8	8.0	10.8	0.3	7.4
圏域別	高松圏域	763	59.9	44.3	40.6	41.5	36.7	17.6	15.9	6.8	8.0	10.4	0.8	4.1
	東讃圏域	145	60.7	37.2	38.6	37.9	38.6	21.4	15.9	6.2	8.3	9.7	1.4	4.1
	小豆圏域	44	77.3	47.7	40.9	27.3	27.3	31.8	18.2	4.5	4.5	4.5	-	4.5
	中讃圏域	432	58.6	42.6	35.6	43.5	39.1	16.0	14.1	7.4	7.6	10.2	1.4	5.6
	西讃圏域	192	59.9	42.7	34.4	42.2	43.2	19.8	15.6	4.2	7.3	6.8	1.0	5.7
居住年数別	3年未満	104	63.5	43.3	41.3	39.4	31.7	14.4	14.4	10.6	10.6	9.6	1.0	3.8
	3年以上~10年未満	164	62.2	39.6	36.6	42.1	34.8	23.8	20.7	7.3	5.5	9.1	1.2	4.3
	10年以上~20年未満	223	65.9	43.9	41.3	39.5	38.1	21.1	18.8	8.1	4.0	8.5	1.3	1.3
	20年以上	1,034	58.5	43.9	37.7	42.5	39.7	17.4	14.4	5.9	8.9	9.7	0.9	4.6

(4) 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問27 中学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	42.6%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	26.8%
3	道德教育の充実	33.9%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9%
5	健康な体づくりと体力の向上	21.8%
6	学力・学習意欲の向上	34.6%
7	体験活動の充実	14.8%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5%
10	障害のある生徒への支援	7.0%
11	部活動の充実	13.1%
12	その他（具体的に： （無回答）	1.3% 4.8%

中学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(48.9%)が最も多く、次いで「基礎的・基本的な学力の習得」(42.6%)、「学力・学習意欲の向上」(34.6%)、「道德教育の充実」(33.9%)などとなっている。

図表 5-A-(4)-1 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	42.6	671 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	26.8	423 人
(3) 道徳教育の充実	33.9	535 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9	771 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	21.8	343 人
(6) 学力・学習意欲の向上	34.6	545 人
(7) 体験活動の充実	14.8	234 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2	255 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5	276 人
(10) 障害のある児童への支援	7.0	110 人
(11) 部活動の充実	13.1	206 人
(12) その他	1.3	20 人
無回答	4.8	76 人

グラフ単位：(%)

中学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、その比率は『男性』(45.1%)、『女性』(53.5%)となっており、これに「基礎的・基本的な学力の習得」『男性』(43.0%)、『女性』(42.3%)が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多くなっている。『40～49歳』では「基礎的・基本的な学力の習得」が半数を超え最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、『農林漁業』では「基礎的・基本的な学力の習得」も同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多くなっている。『小豆圏域』では「基礎的・基本的な学力の習得」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」が最も多く、これに「基礎的・基本的な学力の習得」が続いている。

図表 5-A-(4)-2 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	基礎的・基本的な学力の習得	基本的な生活習慣・規律の確立	道徳教育の充実	止いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防	健康な体づくりと体力の向上	学力・学習意欲の向上	体験活動の充実	国際的な視野を獲得する機会の充実	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	障害のある生徒への支援	部活動の充実	その他	無回答
単位:比率(%)															
全体		1,576	42.6	26.8	33.9	48.9	21.8	34.6	14.8	16.2	17.5	7.0	13.1	1.3	4.8
性別	男性	765	43.0	28.1	37.1	45.1	23.1	37.0	14.9	15.8	17.9	6.8	12.2	1.6	3.4
	女性	770	42.3	25.3	30.6	53.5	20.8	32.6	15.3	16.9	16.9	7.1	14.2	0.9	5.6
年齢別	20~29歳	79	41.8	26.6	29.1	50.6	19.0	38.0	21.5	11.4	16.5	8.9	20.3	3.8	2.5
	30~39歳	139	46.0	20.9	26.6	54.0	12.9	36.7	24.5	23.0	23.0	2.9	19.4	0.7	0.7
	40~49歳	199	56.3	20.6	31.2	50.8	18.6	34.2	15.1	22.1	18.6	8.5	11.1	1.0	1.5
	50~59歳	263	43.0	28.9	33.5	47.1	22.8	37.3	14.8	16.3	17.9	5.3	17.9	1.1	2.7
	60~69歳	405	35.1	32.3	33.1	52.6	23.0	37.0	15.6	17.3	16.8	8.6	13.8	1.7	2.5
	70歳以上	449	43.2	24.9	39.4	45.0	25.4	30.5	10.7	12.0	15.1	6.7	7.6	0.9	10.0
職業別	農林漁業	118	40.7	37.3	33.1	40.7	22.9	32.2	15.3	16.1	17.8	6.8	8.5	2.5	5.1
	商工業、サービス業、自由業など	189	46.6	23.8	36.0	52.4	22.8	35.4	11.1	20.1	18.0	7.4	11.6	1.1	2.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	43.1	26.7	34.0	48.8	21.2	37.4	18.4	16.9	19.8	6.2	15.9	1.1	1.4
	主婦・主夫	302	41.4	25.2	30.5	53.0	20.2	32.8	14.9	15.2	14.2	7.6	13.9	1.7	7.0
	無職	351	42.2	26.5	35.6	48.1	23.9	33.0	12.3	15.1	15.7	7.4	11.1	0.9	7.1
圏域別	高松圏域	763	43.1	26.6	35.6	48.0	22.9	34.7	14.7	18.2	18.6	6.8	10.9	1.3	4.1
	東讃圏域	145	44.1	25.5	27.6	49.7	24.1	36.6	13.1	13.8	16.6	9.0	12.4	1.4	5.5
	小豆圏域	44	50.0	25.0	36.4	47.7	25.0	34.1	15.9	20.5	13.6	2.3	15.9	-	2.3
	中讃圏域	432	41.9	27.5	33.6	50.9	17.6	33.8	16.2	15.0	15.5	7.6	14.6	1.4	5.8
	西讃圏域	192	39.1	27.6	32.3	47.9	24.0	34.4	13.5	11.5	19.3	5.7	18.2	1.0	5.7
居住年数別	3年未満	104	41.3	21.2	33.7	51.0	16.3	31.7	19.2	15.4	25.0	7.7	16.3	1.9	3.8
	3年以上~10年未満	164	40.9	23.8	27.4	53.0	18.3	37.8	15.9	20.1	21.3	6.7	14.0	0.6	4.3
	10年以上~20年未満	223	49.8	23.8	31.8	52.5	23.3	35.9	13.5	17.9	17.9	7.2	14.3	0.9	1.3
	20年以上	1,034	41.7	28.4	35.5	47.8	23.0	34.4	14.9	15.8	15.9	7.0	12.5	1.4	5.0

(5) 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問28 高等学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2%
2	生徒の進路実現のための学力の習得	43.1%
3	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4%
4	道徳教育の充実	24.0%
5	学力・学習意欲の向上	23.1%
6	国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3%
7	健康な体づくりと体力の向上	16.8%
8	障害のある生徒への支援	6.0%
9	部活動の充実	9.6%
10	インターンシップ（就業体験）など就職支援の充実	23.7%
11	地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1%
12	その他（具体的に： )	1.1%
	（無回答）	5.3%

高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」（48.4%）が最も多く、次いで「生徒の進路実現のための学力の習得」（43.1%）、「国際的な視野を獲得する機会の充実」（34.3%）、「いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止」（31.2%）などとなっている。

図表 5-A-(5)-1 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2	491 人
(2) 生徒の進路実現のための学力の習得	43.1	679 人
(3) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4	762 人
(4) 道徳教育の充実	24.0	378 人
(5) 学力・学習意欲の向上	23.1	364 人
(6) 国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3	540 人
(7) 健康な体づくりと体力の向上	16.8	264 人
(8) 障害のある生徒への支援	6.0	95 人
(9) 部活動の充実	9.6	152 人
(10) インターンシップ(就業体験)など就職支援の充実	23.7	374 人
(11) 地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1	238 人
(12) その他	1.1	18 人
無回答	5.3	83 人

グラフ単位：(%)

高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、その比率は『男性』(48.2%)、『女性』(49.6%)となっており、これに「生徒の進路実現のための学力の習得」『男性』(44.2%)、『女性』(42.6%)が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「生徒の進路実現のための学力の習得」、「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が同率で最も多くなっている。『50～59歳』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が、そのほかの年齢では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、『農林漁業』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が最も多くなっている。これに『農林漁業』では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が、そのほかの職業では「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、『小豆圏域』では「生徒の進路実現のための学力の習得」が半数を超え最も多くなっている。これに『小豆圏域』では「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が、そのほかの圏域では「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」が最も多く、これに「生徒の進路実現のための学力の習得」が続いている。

図表 5-A-(5)-2 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)			
	回答者数(人)	いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	生徒の進路実現のための学力の習得	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	道徳教育の充実	学力・学習意欲の向上	国際的な視野を獲得する機会の充実	健康な体づくりと体力の向上	障害のある生徒への支援	部活動の充実	インターンシップなど就職支援の充実	地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	その他	無回答	
単位: 比率(%)															
全体	1,576	31.2	43.1	48.4	24.0	23.1	34.3	16.8	6.0	9.6	23.7	15.1	1.1	5.3	
性別	男性	765	29.2	44.2	48.2	25.5	26.1	34.1	17.1	5.6	10.5	21.8	16.2	1.6	3.9
	女性	770	33.4	42.6	49.6	22.6	20.4	34.5	16.4	6.4	8.6	26.1	13.8	0.6	6.0
年齢別	20~29歳	79	29.1	48.1	50.6	19.0	21.5	24.1	11.4	5.1	16.5	39.2	16.5	3.8	2.5
	30~39歳	139	30.2	51.1	51.1	12.9	25.9	33.8	9.4	2.2	10.8	40.3	19.4	0.7	0.7
	40~49歳	199	25.6	51.3	54.8	18.6	28.6	36.7	11.6	5.5	9.5	30.7	12.6	1.5	1.5
	50~59歳	263	26.2	52.1	50.6	21.7	20.9	34.2	14.4	4.9	12.5	29.7	15.6	1.5	2.7
	60~69歳	405	31.9	36.8	50.6	26.4	21.2	41.2	18.8	8.4	7.7	22.7	16.0	1.2	3.2
	70歳以上	449	36.5	37.6	43.0	29.8	23.8	29.4	22.0	6.0	8.0	11.1	13.1	0.4	10.9
職業別	農林漁業	118	28.8	44.1	43.2	30.5	27.1	28.0	20.3	6.8	5.9	18.6	15.3	0.8	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	32.3	47.1	48.7	25.4	25.9	36.0	14.3	5.3	10.6	25.4	14.8	0.5	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	27.5	46.5	54.2	20.5	22.6	36.2	14.4	5.0	10.5	32.3	16.2	1.8	1.4
	主婦・主夫	302	32.1	41.4	47.7	25.5	20.9	35.1	19.9	6.0	9.3	18.9	13.6	0.7	7.3
	無職	351	36.2	39.0	43.9	25.1	23.9	33.0	18.8	7.4	9.1	16.5	14.8	0.9	7.7
圏域別	高松圏域	763	31.2	42.9	48.1	23.3	23.9	36.7	16.4	5.2	8.1	26.5	15.9	1.2	4.5
	東讃圏域	145	31.7	40.7	42.1	28.3	22.1	33.8	15.9	7.6	15.2	22.8	14.5	0.7	4.8
	小豆圏域	44	27.3	54.5	50.0	34.1	25.0	36.4	18.2	4.5	9.1	15.9	4.5	2.3	2.3
	中讃圏域	432	32.4	41.0	48.4	22.9	22.7	31.5	17.1	6.7	10.0	22.5	15.5	1.4	6.7
	西讃圏域	192	28.6	47.9	53.6	23.4	21.4	30.7	17.7	6.8	10.9	18.2	14.1	0.5	6.3
居住年数別	3年未満	104	26.9	44.2	47.1	16.3	26.0	26.9	11.5	4.8	15.4	34.6	19.2	2.9	4.8
	3年以上~10年未満	164	31.1	40.9	52.4	25.0	28.7	32.9	10.4	4.9	11.0	33.5	12.2	0.6	4.3
	10年以上~20年未満	223	26.5	48.9	51.1	19.3	25.1	37.2	16.1	6.3	10.3	26.0	17.0	0.9	1.8
	20年以上	1,034	32.6	42.7	48.2	25.5	21.9	35.0	18.6	6.1	8.7	21.2	14.6	1.1	5.5

## 5-B. 子どもの教育(家庭・地域)について

### (1)しつけや学習など家庭での教育の状況

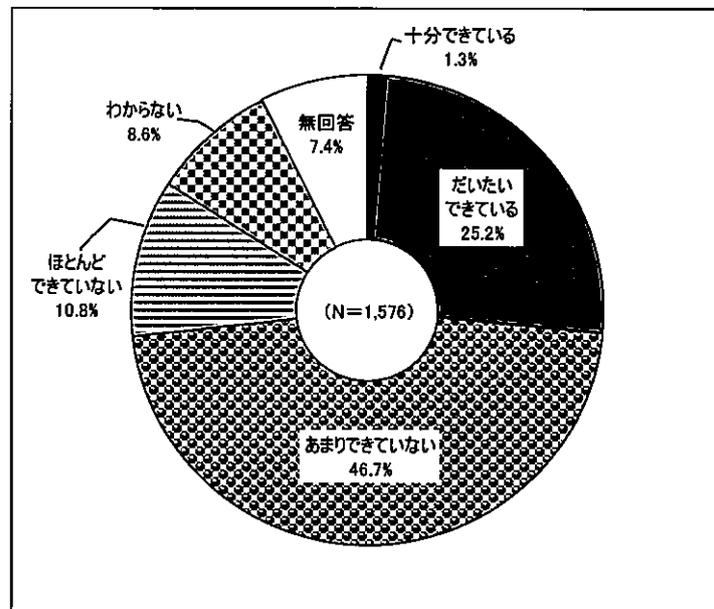
問29 周囲を考えたとき、最近、しつけや学習など家庭での教育が十分にできていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 十分にできている	1.3%
2 だいたいできている	25.2%
3 あまりできていない	46.7%
4 ほとんどできていない	10.8%
5 わからない	8.6%
(無回答)	7.4%

しつけや学習など家庭での教育の状況について、「あまりできていない」(46.7%)が最も多く、次いで「だいたいできている」(25.2%)、「ほとんどできていない」(10.8%)、「わからない」(8.6%)などとなっている。

図表 5-B-(1)-1 しつけや学習など家庭での教育の状況



しつけや学習など家庭での教育の状況について、

性別にみると、男女ともに「あまりできていない」が最も多く、その比率は『男性』(45.8%)、『女性』(48.2%)となっており、これに「だいたいできている」『男性』(25.8%)、『女性』(25.2%)が続いている。「あまりできていない」と「ほとんどできていない」を合わせた【できていない】が「十分できている」と「だいたいできている」を合わせた【できている】を上回っている。

年齢別にみると、【できている】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

職業別にみると、【できている】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

圏域別にみると、【できている】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

居住年数別にみると、【できている】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【できていない】が【できている】を上回っている。

図表 5-B-(1)-2 しつけや学習など家庭での教育の状況

		(1) 十分できている	(2) だいたいできている	(3) あまりできていない	(4) ほとんどできていない	(5) わからない	無回答	回答数
凡例								
	全体	1.3	25.2	46.7	10.8	8.6	7.4	1,576 人
性別	男性	1.3	25.8	45.8	12.9	8.5	5.8	765 人
	女性	1.4	25.2	48.2	8.6	8.6	8.1	770 人
年齢別	20~29歳	3.8	22.8	40.5	13.9	12.7	6.3	79 人
	30~39歳	0.0	30.2	50.4	10.8	7.9	7.7	139 人
	40~49歳	3.0	35.2	41.7	11.1	6.5	2.5	199 人
	50~59歳	0.8	21.3	51.3	12.9	6.5	7.2	263 人
	60~69歳	0.2	21.5	54.1	9.9	8.4	5.9	405 人
	70歳以上	2.0	26.3	40.5	9.6	10.2	11.4	449 人
職業別	農林漁業	1.7	28.0	44.9	9.3	11.9	4.2	118 人
	商工業、サービス業、自由業など	2.6	28.6	41.3	12.7	9.5	5.3	189 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	1.1	26.7	50.6	10.7	5.5	5.3	561 人
	主婦・主夫	0.7	22.5	51.3	9.3	7.3	8.9	302 人
	無職	1.4	23.1	42.7	11.7	12.5	8.5	351 人
圏域別	高松圏域	1.6	25.6	47.4	10.1	8.7	6.7	763 人
	東讃圏域	0.7	20.7	46.2	15.2	10.3	6.9	145 人
	小豆圏域	4.5	20.5	54.5	4.5	6.8	9.1	44 人
	中讃圏域	1.2	25.2	44.9	11.8	9.0	7.9	432 人
	西讃圏域	0.5	28.1	46.4	9.4	6.8	8.9	192 人
居住年数別	3年未満	0.0	20.2	53.8	9.6	11.5	4.8	104 人
	3年以上~10年未満	1.2	28.7	42.7	11.6	9.1	6.7	164 人
	10年以上~20年未満	1.8	30.0	48.4	10.3	5.4	4.0	223 人
	20年以上	1.5	24.4	47.0	10.8	8.8	7.5	1,034 人

グラフ単位：(%)

(2) 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

問30 家庭での教育を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 親の子どもへの積極的な関わり	59.8%
2 子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1%
3 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5%
4 家庭教育の重要性についての啓発	33.9%
5 子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5%
6 家庭教育に関する相談体制の充実	23.4%
7 その他（具体的に： )	3.6%
(無回答)	6.9%

家庭での教育を充実させるために必要だと思うことについて、「親の子どもへの積極的な関わり」(59.8%)が最も多く、次いで「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」(59.5%)、「家庭教育の重要性についての啓発」(33.9%)、「子どもが体験活動を行う機会の提供」(33.1%)などとなっている。

図表 5-B-(2)-1 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

	100.0	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 親の子どもへの積極的な関わり	59.8	943 人
(2) 子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1	521 人
(3) 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5	937 人
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	33.9	534 人
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5	512 人
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	23.4	369 人
(7) その他	3.6	57 人
無回答	6.9	109 人

グラフ単位：(%)

家庭での教育を充実させるために必要だと思うことについて、

性別にみると、『男性』では「親の子どもへの積極的な関わり」(59.1%)が、『女性』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」(62.9%)が最も多くなっている。これに『男性』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」(57.0%)が、『女性』では「親の子どもへの積極的な関わり」(61.0%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。『30～39歳』では「親の子どもへの積極的な関わり」、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多く、そのほかの職業では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多くなっている。これに『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「親の子どもへの積極的な関わり」が、そのほかの職業では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が続いている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『西讃圏域』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。『高松圏域』では「親の子どもへの積極的な関わり」、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「親の子どもへの積極的な関わり」が最も多く、『20年以上』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が最も多くなっている。これに『20年以上』では「親の子どもへの積極的な関わり」が、そのほかでは「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が続いている。

図表 5-B-(2)-2 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		回答者数(人)	親の子どもへの積極的な関わり	子どもが体験活動を行う機会の提供	親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	家庭教育の重要性についての啓発	子どもや親同士が交流できる機会の提供	家庭教育に関する相談体制の充実	その他	無回答
単位:比率(%)										
全体		1,576	59.8	33.1	59.5	33.9	32.5	23.4	3.6	6.9
性別	男性	765	59.1	36.6	57.0	35.2	33.5	23.0	4.4	5.9
	女性	770	61.0	30.3	62.9	32.7	31.4	24.2	3.0	7.0
年齢別	20~29歳	79	68.4	30.4	65.8	26.6	35.4	25.3	3.8	5.1
	30~39歳	139	66.2	33.8	66.2	22.3	40.3	17.3	3.6	0.7
	40~49歳	199	65.8	30.2	67.3	29.1	21.6	24.6	6.5	2.5
	50~59歳	263	57.4	33.5	57.8	33.1	28.1	24.0	6.1	6.5
	60~69歳	405	58.5	36.8	55.6	41.0	33.6	24.7	2.0	5.4
	70歳以上	449	57.2	32.3	59.7	35.2	36.3	23.6	2.4	10.7
職業別	農林漁業	118	55.9	33.1	62.7	35.6	39.0	20.3	3.4	4.2
	商工業、サービス業、自由業など	189	63.5	39.2	61.4	36.0	33.9	24.3	3.2	4.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	62.7	33.5	60.4	31.9	30.5	23.7	5.2	4.1
	主婦・主夫	302	62.3	30.1	63.2	33.4	30.1	25.2	1.7	7.6
	無職	351	53.8	33.6	55.3	35.6	35.0	23.4	3.4	9.7
圏域別	高松圏域	763	59.5	35.0	59.5	37.0	31.8	24.6	3.8	5.8
	東讃圏域	145	62.1	31.0	60.0	31.7	32.4	23.4	2.8	6.9
	小豆圏域	44	65.9	38.6	56.8	34.1	20.5	15.9	6.8	6.8
	中讃圏域	432	61.8	28.9	60.6	31.5	32.4	23.8	3.9	7.6
	西讃圏域	192	53.6	34.9	56.8	28.6	38.0	19.3	2.1	9.9
居住年数別	3年未満	104	62.5	39.4	61.5	27.9	26.0	23.1	7.7	5.8
	3年以上~10年未満	164	64.0	26.8	62.2	28.0	37.8	23.2	3.7	5.5
	10年以上~20年未満	223	68.2	30.5	57.0	32.3	33.6	22.4	3.6	4.0
	20年以上	1,034	57.6	34.4	60.4	35.8	32.3	24.1	3.3	6.9

(3)地域における大人と子どもとの関わり

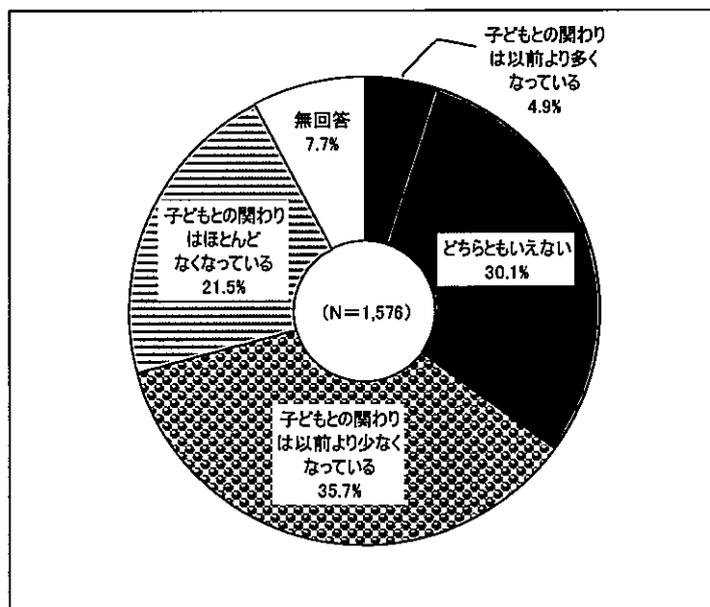
問31 地域における大人と子どもとの関わりについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 子どもとの関わりは以前より多くなっている	4.9%
2 どちらともいえない	30.1%
3 子どもとの関わりは以前より少なくなっている	35.7%
4 子どもとの関わりはほとんどなくなっている	21.5%
(無回答)	7.7%

地域における大人と子どもとの関わりについて、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」(35.7%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(30.1%)、「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」(21.5%)、「子どもとの関わりは以前より多くなっている」(4.9%)などとなっている。

図表 5-B-(3)-1 地域における大人と子どもとの関わり



地域における大人と子どもとの関わりについて、

性別にみると、男女ともに「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多く、その比率は『男性』(37.4%)、『女性』(35.2%)となっており、これに「どちらともいえない」『男性』(28.6%)、『女性』(31.6%)が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』では「どちらともいえない」が最も多く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。『20～29歳』では「どちらともいえない」、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多く、これに「どちらともいえない」が続いている。

圏域別にみると、『西讃圏域』では「どちらともいえない」、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が同率で最も多くなっている。そのほかの圏域では「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「どちらともいえない」が最も多く、そのほかでは「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も多くなっている。

図表 5-B-(3)-2 地域における大人と子どもとの関わり

	(1) 子ども の関わり は以前 より多 くなっ ている	(2) どち らとも いえな い	(3) 子ども の関わり は以前 より少 なくな っている	(4) 子ども の関わり はほと んどな くなっ ている	無 回 答	回答数	
凡例							
全体	4.9	30.1	35.7	21.5	7.7	1,576 人	
性別	男性	4.7	28.6	37.4	23.1	6.1	765 人
	女性	4.7	31.6	35.2	20.1	8.4	770 人
年齢別	20～29歳	3.8	36.7	36.7	16.5	6.3	79 人
	30～39歳	6.5	41.0	34.5	17.3	0.7	139 人
	40～49歳	3.5	40.2	37.2	15.6	3.5	199 人
	50～59歳	1.5	29.3	39.2	22.8	7.2	263 人
	60～69歳	4.4	24.9	40.7	24.2	5.7	405 人
	70歳以上	7.1	25.8	31.0	23.6	12.5	449 人
職業別	農林漁業	9.3	30.5	32.2	22.9	5.1	118 人
	商工業、サービス業、自由業など	4.8	31.2	39.7	19.0	5.3	189 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	3.2	32.8	38.1	21.0	4.8	561 人
	主婦・主夫	5.0	28.8	36.1	20.9	9.3	302 人
	無職	5.1	25.9	33.9	24.8	10.3	351 人
圏域別	高松圏域	4.8	28.4	37.2	23.2	6.3	763 人
	東讃圏域	2.1	30.3	35.2	24.8	7.6	145 人
	小豆圏域	2.3	31.8	36.4	18.2	11.4	44 人
	中讃圏域	6.5	31.3	34.0	19.2	9.0	432 人
	西讃圏域	4.2	33.9	33.9	18.2	9.9	192 人
	居住年数別	3年未満	1.9	39.4	37.5	12.5	8.7
3年以上～10年未満	6.7	39.6	29.9	17.1	6.7	164 人	
10年以上～20年未満	4.5	35.0	37.2	18.8	4.5	223 人	
20年以上	4.7	26.5	37.1	24.1	7.5	1,034 人	

グラフ単位：(%)

(4)地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

問32 地域社会で教育的活動を実践するとしたら、どのようなものに携わっていきたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の授業や行事等の参観	27.1%
2	登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9%
3	学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1%
4	放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5%
5	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3%
6	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8%
7	授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6%
8	部活動指導や大会引率などへの支援	10.2%
9	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4%
10	子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1%
11	その他（具体的に： )	2.9%
	(無回答)	11.0%

地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動について、「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」(54.9%)が最も多く、次いで「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」(35.1%)、「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」(31.5%)、「学校の授業や行事等の参観」(27.1%)などとなっている。

図表 5-B-(4)-1 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

	100.0	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の授業や行事等の参観	27.1	427 人
(2) 登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9	865 人
(3) 学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1	553 人
(4) 放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5	496 人
(5) 文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3	398 人
(6) 花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8	280 人
(7) 授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6	183 人
(8) 部活動指導や大会引率などへの支援	10.2	161 人
(9) 学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4	117 人
(10) 子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1	301 人
(11) その他	2.9	45 人
無回答	11.0	174 人

グラフ単位：(%)

地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動について、

性別にみると、男女ともに「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、その比率は『男性』(53.1%)、『女性』(57.0%)となっており、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」『男性』(36.1%)、『女性』(34.9%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに『20～29歳』では「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」が、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校の授業や行事等の参観」が、そのほかの年齢では「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

職業別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が半数を超え最も多く、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」が最も多く、これに『3年未満』では「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」が、『3年以上～10年未満』では「学校の授業や行事等の参観」が、そのほかでは「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」が続いている。

図表 5-B-(4)-2 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
	回答者数(人)	学校の授業や行事等の参観	登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	部活動指導や大会引率などへの支援	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	その他	無回答	
単位:比率(%)														
全体		1,576	27.1	54.9	35.1	31.5	25.3	17.8	11.6	10.2	7.4	19.1	2.9	11.0
性別	男性	765	25.6	53.1	36.1	32.4	23.7	14.9	11.5	11.0	9.4	16.7	3.1	10.3
	女性	770	29.0	57.0	34.9	31.0	26.9	20.8	11.7	9.0	5.5	21.8	2.5	10.8
年齢別	20~29歳	79	29.1	51.9	22.8	39.2	27.8	16.5	16.5	19.0	8.9	16.5	1.3	6.3
	30~39歳	139	46.8	49.6	36.7	36.7	25.9	16.5	12.9	10.8	8.6	12.2	0.7	4.3
	40~49歳	199	40.2	43.7	31.2	35.2	20.6	15.1	12.1	9.5	4.5	18.1	3.0	5.5
	50~59歳	263	21.7	55.1	38.4	28.9	20.9	16.7	12.9	9.1	8.4	14.8	4.6	9.5
	60~69歳	405	19.3	59.8	39.3	33.3	24.7	20.7	8.6	6.9	8.4	20.7	2.7	8.6
	70歳以上	449	25.4	58.4	33.9	27.2	29.8	17.8	12.2	11.6	6.7	24.3	3.1	17.6
職業別	農林漁業	118	33.9	64.4	39.8	25.4	31.4	22.9	8.5	6.8	10.2	19.5	3.4	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	189	22.8	56.6	39.7	32.8	21.7	16.4	11.6	10.6	8.5	21.7	3.2	9.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	29.8	51.9	36.9	35.8	24.2	15.9	12.5	9.8	6.6	15.5	2.0	6.1
	主婦・主夫	302	30.1	57.3	30.8	26.8	26.2	21.9	11.6	9.6	7.0	22.8	2.6	13.9
	無職	351	21.1	54.4	33.3	30.8	25.6	16.5	11.1	11.1	7.4	21.1	4.3	16.0
圏域別	高松圏域	763	24.9	54.3	35.0	31.5	23.6	19.3	12.6	8.9	7.7	19.5	3.3	10.1
	東讃圏域	145	26.2	55.9	37.2	28.3	24.8	11.7	8.3	8.3	2.1	15.9	0.7	11.0
	小豆圏域	44	18.2	45.5	43.2	34.1	18.2	20.5	6.8	6.8	11.4	11.4	2.3	15.9
	中讃圏域	432	30.6	56.0	33.8	32.6	27.5	17.6	12.7	12.0	8.3	20.8	3.2	11.1
	西讃圏域	192	30.7	56.3	34.9	30.7	28.6	16.1	8.9	13.5	7.3	17.7	2.1	13.5
居住年数別	3年未満	104	29.8	50.0	23.1	31.7	26.0	14.4	15.4	9.6	12.5	11.5	2.9	10.6
	3年以上~10年未満	164	43.3	43.9	34.8	40.2	20.7	20.7	12.8	12.2	7.3	18.9	1.2	8.5
	10年以上~20年未満	223	30.9	53.8	35.9	30.5	19.3	17.0	10.3	9.4	8.1	16.1	3.1	6.3
	20年以上	1,034	23.8	58.0	36.8	30.7	27.4	18.0	11.4	9.9	6.8	21.2	3.1	11.4

5-C. 子どもの教育全般について

(1) これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

問33 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力は何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4%
2	自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7%
3	コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1%
4	語学力や国際感覚	21.2%
5	自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5%
6	自ら考え判断する力	34.5%
7	他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3%
8	健康と体力	14.6%
9	困難に耐える力	18.9%
10	他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5%
11	その他（具体的に： )	1.0%
	（無回答）	5.8%

これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力について、「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」（46.3%）が最も多く、次いで「自分の考えを的確に相手に伝える力」（40.7%）、「自ら考え判断する力」「他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力」（ともに34.5%）などとなっている。

図表 5-C-(1)-1 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

	割合	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4	447 人
(2) 自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7	641 人
(3) コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1	191 人
(4) 語学力や国際感覚	21.2	334 人
(5) 自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5	402 人
(6) 自ら考え判断する力	34.5	543 人
(7) 他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3	729 人
(8) 健康と体力	14.6	230 人
(9) 困難に耐える力	18.9	298 人
(10) 他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5	544 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	5.8	92 人

グラフ単位：(%)

これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力について、

性別にみると、男女ともに「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、その比率は『男性』(43.5%)、『女性』(49.7%)となっており、これに「自分の考えを的確に相手に伝える力」『男性』(38.4%)、『女性』(43.4%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が半数を超え最も多く、『40～49歳』では「自ら考え判断する力」が、そのほかの年齢では「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、これに『無職』では「読み・書き・計算などの基礎的な学力」が、そのほかの職業では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が続いている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が最も多く、『小豆圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が、『東讃圏域』では「他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力」が、『小豆圏域』では「読み・書き・計算などの基礎的な学力」が続いている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「自分の考えを的確に相手に伝える力」が最も多くなっている。これに『3年以上～10年未満』では「自ら考え判断する力」が、『20年以上』では「自分の考えを的確に相手に伝える力」が、そのほかでは「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」が続いている。

図表 5-C-(1)-2 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)			
	回答者数(人)	読み・書き・計算などの基礎的な学力	自分の考えを的確に相手に伝える力	コンピュータやインターネットを使いこなす力	語学力や国際感覚	自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	自ら考え判断する力	他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	健康と体力	困難に耐える力	他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	その他	無回答	
単位:比率(%)														
全体	1,576	28.4	40.7	12.1	21.2	25.5	34.5	46.3	14.6	18.9	34.5	1.0	5.8	
性別	男性	765	31.6	38.4	15.0	22.7	24.7	34.2	43.5	14.6	18.8	34.4	1.0	4.8
	女性	770	25.6	43.4	9.1	19.9	26.5	35.3	49.7	14.2	19.5	34.8	0.8	6.0
年齢別	20~29歳	79	19.0	57.0	10.1	12.7	29.1	40.5	44.3	15.2	17.7	36.7	1.3	5.1
	30~39歳	139	27.3	53.2	10.8	17.3	32.4	47.5	37.4	7.2	26.6	35.3	-	0.7
	40~49歳	199	22.1	45.7	12.1	23.1	29.6	48.2	44.7	10.6	16.1	34.2	1.0	2.5
	50~59歳	263	24.7	38.8	11.8	19.0	25.1	35.7	51.3	14.8	17.9	37.6	1.5	5.3
	60~69歳	405	24.7	40.0	10.6	25.4	27.2	33.1	47.4	17.5	18.8	36.0	0.7	4.2
	70歳以上	449	39.6	34.3	14.3	21.2	20.0	24.7	47.0	15.4	19.8	30.7	1.1	9.1
職業別	農林漁業	118	31.4	40.7	16.9	20.3	22.0	31.4	42.4	17.8	25.4	33.1	0.8	3.4
	商工業、サービス業、自由業など	189	30.2	39.7	9.5	21.2	28.0	32.3	48.1	18.0	24.3	33.9	0.5	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	23.4	45.6	11.6	20.5	28.3	39.2	48.5	12.7	17.5	38.3	1.2	3.2
	主婦・主夫	302	28.5	41.4	8.6	21.9	24.8	31.5	47.4	15.2	19.5	32.1	1.0	7.6
	無職	351	35.0	34.2	14.8	23.6	21.7	33.6	43.6	14.0	16.2	31.9	0.6	8.3
圏域別	高松圏域	763	26.6	42.1	10.4	23.3	24.9	35.8	45.5	15.2	19.0	36.4	0.8	5.4
	東讃圏域	145	33.8	32.4	17.9	24.1	24.8	29.7	40.0	15.9	17.2	37.9	0.7	5.5
	小豆圏域	44	40.9	45.5	15.9	13.6	34.1	34.1	38.6	11.4	9.1	25.0	2.3	6.8
	中讃圏域	432	30.1	39.8	12.5	18.3	24.8	34.7	48.6	13.9	19.0	32.2	1.6	6.5
	西讃圏域	192	24.5	42.2	13.0	18.8	28.1	32.3	50.5	13.5	21.9	31.8	0.5	6.3
居住年数別	3年未満	104	20.2	51.0	12.5	17.3	25.0	39.4	47.1	6.7	26.0	34.6	-	6.7
	3年以上~10年未満	164	28.7	48.2	7.9	18.3	29.3	46.3	40.2	14.0	17.1	31.7	1.2	4.9
	10年以上~20年未満	223	22.0	51.1	8.1	24.7	28.7	41.3	49.8	9.0	20.2	32.3	0.9	2.2
	20年以上	1,034	30.9	36.6	13.3	21.6	24.5	31.2	47.1	16.5	18.7	35.4	1.0	5.9

(2)子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

問34 子どもたちの教育環境で、これからはどのようなことが特に大切だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の施設や設備を整備すること	8.8%
2	教員の資質や指導力を向上させること	47.3%
3	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2%
4	社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6%
5	学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8%
6	学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7%
7	障害のある子どもがきちんと学べること	9.9%
8	親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6%
9	家庭教育がしっかりとれるようにすること	19.0%
10	安全・安心な地域づくりをすること	26.3%
11	だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7%
12	保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1%
13	その他（具体的に： )	1.8%
	(無回答)	6.6%

子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うことについて、「教員の資質や指導力を向上させること」(47.3%)が最も多く、次いで「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」(33.2%)、「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」(29.6%)、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」(28.8%)などとなっている。

図表 5-C-(2)-1 子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の施設や設備を整備すること	8.8	138 人
(2) 教員の資質や指導力を向上させること	47.3	746 人
(3) 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2	524 人
(4) 社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6	356 人
(5) 学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8	454 人
(6) 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7	169 人
(7) 障害のある子どもがきちんと学べること	9.9	156 人
(8) 親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6	466 人
(9) 家庭教育がしっかりできるようにすること	19.0	299 人
(10) 安全・安心な地域づくりをすること	26.3	415 人
(11) だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7	185 人
(12) 保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1	270 人
(13) その他	1.8	28 人
無回答	6.6	104 人

グラフ単位：(%)

子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、その比率は『男性』(49.9%)、『女性』(45.1%)となっており、これに「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」『男性』(32.5%)、『女性』(34.5%)が続いている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、『20～29歳』では「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が最も多くなっている。これに『20～29歳』では「教員の資質や指導力を向上させること」が、『30～39歳』、『50～59歳』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が、『40～49歳』では「安全・安心な地域づくりをすること」が、そのほかの年齢では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が続いている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業別で「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、『農林漁業』では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が最も多くなっている。これに『農林漁業』では「教員の資質や指導力を向上させること」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」が、そのほかの職業では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、これに『高松圏域』、『西讃圏域』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が、『小豆圏域』では「社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと」が、『中讃圏域』では「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が、『東讃圏域』では「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「教員の資質や指導力を向上させること」が最も多く、これに『3年未満』では「社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと」、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」が同率で続いている。そのほかでは「教員がゆとりを持って子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」が続いている。

図表 5-C-(2)-2 子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)			
	回答者数(人)	学校の施設や設備を整備すること	教員の資質や指導力を向上させること	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	学校と家庭や地域のつながりを深めること	と 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	障害のある子どもがきちんと学べること	親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようになること	家庭教育がしっかりできるようにすること	安全・安心な地域づくりをすること	だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	保護者の教育費の負担を少なくすること	その他	無回答	
単位:比率(%)																
全体	1,576	8.8	47.3	33.2	22.6	28.8	10.7	8.9	29.6	18.0	26.3	11.7	17.1	1.8	6.6	
性別	男性	765	10.6	49.9	32.5	24.4	29.5	11.5	8.5	28.4	18.3	24.1	10.8	17.3	1.8	5.8
	女性	770	6.8	45.1	34.5	21.4	28.7	10.0	11.3	30.1	20.1	28.4	13.0	17.0	1.6	6.6
年齢別	20~29歳	79	16.5	39.2	40.5	19.0	29.1	10.1	12.7	31.6	15.2	21.5	16.5	16.5	3.8	5.1
	30~39歳	139	12.2	45.3	40.3	24.5	24.5	12.2	12.9	30.2	14.4	29.5	12.9	20.9	0.7	0.7
	40~49歳	199	9.5	42.2	35.7	26.6	19.1	13.1	8.0	28.6	15.1	37.2	14.1	23.6	3.5	3.0
	50~59歳	263	6.8	49.4	33.8	26.6	21.7	10.3	9.9	27.8	24.7	27.0	9.1	16.0	1.9	5.7
	60~69歳	405	4.7	49.9	29.6	23.2	34.6	11.1	8.9	32.1	18.8	28.4	13.8	15.8	1.7	5.2
	70歳以上	449	10.7	49.0	32.7	18.9	34.1	9.4	10.2	29.2	20.3	18.9	9.8	15.4	0.9	10.5
職業別	農林漁業	118	5.1	39.8	37.3	20.3	43.2	10.2	6.8	21.2	22.9	28.0	11.0	15.3	0.8	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	189	9.5	51.9	29.1	25.9	25.4	16.4	9.5	30.7	20.6	29.1	12.7	18.5	1.1	3.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	9.6	44.0	37.3	25.8	25.3	9.4	9.6	29.1	18.4	28.9	12.7	20.9	2.5	3.7
	主婦・主夫	302	6.6	49.7	30.8	19.2	29.8	12.3	12.6	28.8	19.5	29.1	10.3	15.9	1.3	8.3
	無職	351	9.1	51.3	31.9	21.1	32.2	9.1	9.1	34.5	17.7	17.9	12.3	12.8	1.4	9.1
圏域別	高松圏域	763	9.7	47.7	35.6	23.2	24.8	11.0	8.4	29.2	20.7	26.0	13.8	17.2	2.0	5.8
	東讃圏域	145	10.3	42.1	31.0	19.3	31.0	16.6	10.3	30.3	19.3	26.9	8.3	17.9	-	6.9
	小豆圏域	44	4.5	59.1	25.0	36.4	29.5	9.1	2.3	20.5	20.5	25.0	13.6	15.9	4.5	6.8
	中讃圏域	432	7.4	47.9	29.9	22.0	34.3	9.7	10.4	32.2	16.4	26.4	10.9	16.0	2.1	7.6
	西讃圏域	192	7.8	45.8	34.9	20.8	30.7	7.8	16.1	26.6	17.2	27.6	7.8	19.3	1.0	7.3
居住年数別	3年未満	104	8.7	47.1	23.1	31.7	31.7	12.5	8.7	30.8	16.3	24.0	13.5	11.5	1.9	7.7
	3年以上~10年未満	164	11.6	45.1	43.3	25.6	22.0	9.8	11.8	26.8	13.4	29.9	7.3	24.4	2.4	5.5
	10年以上~20年未満	223	9.4	47.5	32.3	25.1	25.1	13.9	9.9	30.5	17.9	26.0	17.9	20.2	1.8	2.2
	20年以上	1,034	8.2	47.9	33.6	21.1	30.9	10.2	9.8	30.2	20.6	26.1	11.2	16.0	1.5	6.8

## 5-D. 生涯学習・スポーツについて

### (1) 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

問35 生涯学習を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	44.7%
2	学習についての情報提供を充実する	26.0%
3	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2%
4	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5%
5	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3%
6	生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4%
7	身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0%
8	小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8%
9	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8%
10	その他(具体的に: )	1.5%
	(無回答)	8.2%

生涯学習を充実させるために必要だと思うことについて、「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」(47.0%)が最も多く、次いで「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」(44.7%)、「学習についての情報提供を充実する」(26.0%)、「生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする」(25.4%)などとなっている。

図表 5-D-(1)-1 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

	100.0	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	44.7	705 人
(2) 学習についての情報提供を充実する	26.0	410 人
(3) 乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2	381 人
(4) 職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5	308 人
(5) 学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3	336 人
(6) 生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4	400 人
(7) 身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0	740 人
(8) 小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8	265 人
(9) 交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8	233 人
(10) その他	1.5	23 人
無回答	8.2	130 人

グラフ単位：(%)

生涯学習を充実させるために必要だと思うことについて、

性別にみると、男女ともに「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多く、『男性』（46.7%）、『女性』（48.2%）となっており、これに「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」『男性』（44.7%）、『女性』（45.2%）が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多く、そのほかの年齢では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに『20～29歳』、『70歳以上』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が、そのほかの年齢では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多く、そのほかの職業では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに『農林漁業』、『無職』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が、そのほかの職業では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多く、そのほかの圏域では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が、そのほかの圏域では「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」が最も多くなっている。これに「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が続いている。

図表 5-D-(1)-2 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数(人)	住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	学習についての情報提供を充実する	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	その他	無回答
単位:比率(%)													
全体		1,576	44.7	26.0	24.2	19.5	21.3	25.4	47.0	16.8	14.8	1.5	8.2
性別	男性	765	44.7	29.4	20.4	20.8	21.6	25.4	46.7	19.6	14.4	1.7	6.9
	女性	770	45.2	23.0	28.8	18.3	22.1	25.6	48.2	14.2	14.9	1.3	8.2
年齢別	20~29歳	79	43.0	26.6	27.8	32.9	22.8	25.3	39.2	19.0	10.1	-	2.5
	30~39歳	139	40.3	28.1	30.9	28.8	18.0	24.5	48.9	25.2	12.9	-	2.9
	40~49歳	199	42.7	25.1	21.6	21.1	15.6	31.2	49.7	23.1	11.6	2.0	4.0
	50~59歳	263	47.5	25.9	22.1	21.3	23.6	33.5	47.9	15.6	12.5	1.5	4.6
	60~69歳	405	46.2	25.9	26.7	12.6	26.2	26.4	51.1	16.5	15.8	1.0	6.4
	70歳以上	449	44.8	26.3	22.9	19.4	20.7	18.3	43.9	11.8	17.8	2.4	14.0
職業別	農林漁業	118	51.7	22.0	27.1	16.1	23.7	17.8	46.6	14.4	17.8	0.8	11.0
	商工業、サービス業、自由業など	189	43.4	32.3	27.0	22.2	23.8	24.9	49.7	18.0	12.7	1.1	6.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	43.5	26.6	23.2	21.6	20.7	33.3	49.4	20.0	11.9	1.4	3.6
	主婦・主夫	302	44.4	21.2	29.8	18.9	23.2	21.9	49.0	13.2	16.9	1.3	8.6
	無職	351	45.6	28.5	20.2	17.1	20.5	20.2	41.9	15.4	17.4	2.0	11.7
圏域別	高松圏域	763	43.6	26.9	22.3	19.3	21.1	28.2	47.7	17.6	15.6	1.8	7.3
	東讃圏域	145	39.3	31.7	22.8	27.6	22.1	22.1	45.5	16.6	13.1	-	8.3
	小豆圏域	44	47.7	27.3	29.5	11.4	29.5	18.2	50.0	18.2	13.6	4.5	9.1
	中讃圏域	432	48.4	21.5	25.0	19.9	20.4	23.6	47.9	16.2	14.8	1.2	9.3
	西讃圏域	192	44.3	28.1	29.7	15.6	21.9	22.4	42.2	15.1	13.0	1.0	9.4
居住年数別	3年未満	104	35.6	25.0	26.9	30.8	16.3	24.0	41.3	23.1	15.4	1.0	5.8
	3年以上~10年未満	164	45.1	27.4	26.2	18.9	22.6	29.9	47.6	20.1	15.9	-	5.5
	10年以上~20年未満	223	44.8	29.6	22.4	16.1	22.4	28.7	48.0	21.5	11.7	-	4.5
	20年以上	1,034	45.9	25.4	24.5	19.4	22.2	24.6	48.1	14.6	15.2	2.0	8.5

(2)過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数

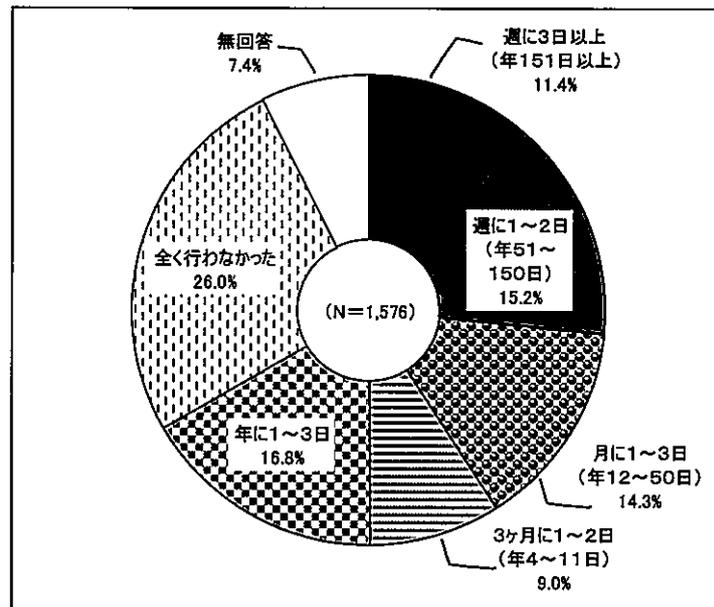
問36 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数を合わせると何日ぐらいになりますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 週に3日以上 (年151日以上)	11.4%
2 週に1～2日 (年51～150日)	15.2%
3 月に1～3日 (年12～50日)	14.3%
4 3ヶ月に1～2日 (年4～11日)	9.0%
5 年に1～3日	16.8%
6 全く行わなかった (無回答)	26.0% 7.4%

過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数について、「全く行わなかった」(26.0%)が最も多く、次いで「年に1～3日」(16.8%)、「週に1～2日(年51～150日)」(15.2%)、「月に1～3日(年12～50日)」(14.3%)などとなっている。

図表 5-D-(2)-1 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数



過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数について、

性別にみると、男女ともに「全く行わなかった」が最も多く、その比率は『男性』(21.7%)、『女性』(30.6%)となっており、これに『男性』では「月に1～3日(年12～50日)」(18.2%)が、『女性』では「年に1～3日」(17.1%)が続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』では「月に1～3日(年12～50日)」が最も多く、『40～49歳』では「年に1～3日」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「全く行わなかった」が最も多くなっている。『20～29歳』では「月に1～3日(年12～50日)」、「年に1～3日」が同率で最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「全く行わなかった」が最も多くなっている。『会社員、商店、官公庁などに勤務』では「年に1～3日」、「全く行わなかった」が同率で最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「全く行わなかった」が最も多く、『小豆圏域』では「週に1～2日(年51～150日)」が最も多くなっている。これに『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「年に1～3日」が、『西讃圏域』では「月に1～3日(年12～50日)」が、『小豆圏域』では「月に1～3日(年12～50日)」、「全く行わなかった」が同率で続いている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「全く行わなかった」が最も多くなっている。『3年未満』では「月に1～3日(年12～50日)」、「年に1～3日」が同率で最も多くなっている。

図表 5-D-(2)-2 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数

	(1) 日週 以上3 日以上 (年151)	(2) 1週 50日 (年51)	(3) 5月 0日 (年12)	(4) 3か 月1 1日 (年4)	(5) 年 に1 (年3)	(6) 全 く 行 わ な か っ た	無 回 答	回答数	
凡例									
全体	11.4	15.2	14.3	9.0	16.8	26.0	7.4	1,576 人	
性別	男性	13.1	15.3	18.2	10.1	15.8	21.7	5.9	765 人
	女性	10.0	15.3	10.8	8.4	17.1	30.6	7.7	770 人
年齢別	20~29歳	12.7	19.0	22.8	11.4	22.8	10.1	113	79 人
	30~39歳	7.2	14.4	20.9	16.5	19.4	18.7	29	139 人
	40~49歳	8.0	14.6	14.1	12.6	25.6	23.1	20	199 人
	50~59歳	9.1	15.2	15.2	11.0	19.4	27.0	30	263 人
	60~69歳	14.1	17.0	14.1	8.9	12.1	29.1	4.7	405 人
	70歳以上	13.6	13.6	11.1	4.5	12.9	29.4	14.9	449 人
職業別	農林漁業	5.9	11.0	16.1	12.7	19.5	26.3	8.5	118 人
	商工業、サービス業、自由業など	11.1	15.3	13.2	7.4	14.8	32.8	5.3	189 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	10.0	14.4	18.2	12.7	21.2	21.2	23	561 人
	主婦・主夫	11.9	18.2	11.3	7.9	10.9	30.5	9.3	302 人
	無職	16.2	16.0	11.1	4.6	13.7	27.1	11.4	351 人
圏域別	高松圏域	11.3	15.2	13.6	9.4	16.0	27.9	6.6	763 人
	東讃圏域	6.9	11.0	12.4	9.0	20.0	34.5	6.2	145 人
	小豆圏域	11.4	22.7	18.2	9.1	13.6	18.2	6.8	44 人
	中讃圏域	12.0	16.0	14.1	7.6	18.5	22.9	8.8	432 人
	西讃圏域	14.1	15.1	17.7	10.4	14.1	20.3	8.3	192 人
居住年数別	3年未満	8.7	11.5	20.2	12.5	20.2	19.2	7.7	104 人
	3年以上~10年未満	9.8	15.2	15.2	12.8	20.1	22.0	4.9	164 人
	10年以上~20年未満	8.5	18.4	14.3	12.6	17.5	26.5	22	223 人
	20年以上	13.0	15.0	13.8	7.6	15.3	27.7	7.6	1,034 人

グラフ単位：(%)

(3) 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

問37 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをしますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8%
2	気に入った運動・スポーツがあれば	30.3%
3	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7%
4	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8%
5	スポーツ施設が身近にあれば	27.4%
6	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9%
7	スポーツ指導者がいれば	7.3%
8	休暇(自由時間)が増加すれば	27.3%
9	現状で満足している	15.9%
10	その他(具体的に: )	5.7%
	(無回答)	8.6%

今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件について、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」(32.7%)が最も多く、次いで「気に入った運動・スポーツがあれば」(30.3%)、「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」(29.8%)、「スポーツ施設が身近にあれば」(27.4%)などとなっている。

図表 5-D-(3)-1 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

	割合	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8	186 人
(2) 気に入った運動・スポーツがあれば	30.3	478 人
(3) 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7	516 人
(4) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8	469 人
(5) スポーツ施設が身近にあれば	27.4	432 人
(6) スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9	377 人
(7) スポーツ指導者がいれば	7.3	115 人
(8) 休暇(自由時間)が増加すれば	27.3	430 人
(9) 現状で満足している	15.9	251 人
(10) その他	5.7	90 人
無回答	8.6	136 人

グラフ単位:(%)

今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件について、

性別にみると、男女ともに「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多く、その比率は『男性』(32.8%)、『女性』(32.5%)となっており、これに『男性』では「気に入った運動・スポーツがあれば」(32.4%)が、『女性』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」(32.2%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多く、『60～69歳』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『70歳以上』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多く、『主婦・主夫』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『無職』では「気に入った運動・スポーツがあれば」が、そのほかの職業では「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」が、『東讃圏域』では「スポーツ施設が身近にあれば」が、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が、『小豆圏域』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」、「スポーツ施設が身近にあれば」が同率で最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「休暇(自由時間)が増加すれば」が最も多く、『20年以上』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も多くなっている。これに『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が、『3年以上～10年未満』では「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」が、『20年以上』では「気に入った運動・スポーツがあれば」が続いている。

図表 5-D-(3)-2 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数(人)	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	気に入った運動・スポーツがあれば	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	スポーツ施設が身近にあれば	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	スポーツ指導者がいれば	休暇(自由時間)が増加すれば	現状で満足している	その他	無回答
単位:比率(%)													
全体		1,576	11.8	30.3	32.7	29.8	27.4	23.9	7.3	27.3	15.9	5.7	8.6
性別	男性	765	13.7	32.4	32.8	27.3	29.9	21.4	7.6	28.1	16.7	5.4	6.5
	女性	770	10.1	28.6	32.5	32.2	25.2	26.9	7.3	27.0	15.2	6.2	9.4
年齢別	20~29歳	79	15.2	30.4	39.2	29.1	30.4	31.6	3.8	50.6	8.9	5.1	1.3
	30~39歳	139	12.9	30.9	31.7	34.5	23.0	36.0	2.9	42.4	12.9	5.0	0.7
	40~49歳	199	10.1	27.1	30.7	25.6	24.1	36.7	3.0	48.2	14.1	5.5	3.0
	50~59歳	263	9.5	29.3	31.9	30.8	32.7	26.2	4.6	40.3	12.9	4.2	4.6
	60~69歳	405	12.6	34.1	33.8	36.5	28.4	26.4	9.6	23.0	16.0	3.7	5.7
	70歳以上	449	12.2	29.6	32.3	23.8	26.3	10.2	11.1	6.5	20.7	9.4	17.4
職業別	農林漁業	118	14.4	31.4	41.5	23.7	32.2	12.7	9.3	18.6	16.9	4.2	12.7
	高工業、サービス業、自由業など	189	11.1	30.2	31.2	31.7	31.7	25.9	9.0	40.2	10.6	5.8	6.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	11.6	28.3	32.8	29.4	28.7	30.7	3.9	46.9	13.9	3.7	2.1
	主婦・主夫	302	12.3	30.8	33.1	35.4	23.2	26.2	11.3	11.6	16.2	7.3	10.3
	無職	351	10.5	34.2	30.2	26.8	26.2	15.4	8.3	7.4	22.2	8.3	13.7
圏域別	高松圏域	763	9.6	30.3	30.5	31.1	27.0	26.1	6.6	29.9	15.9	6.4	8.0
	東讃圏域	145	12.4	33.1	33.1	26.2	36.6	19.3	9.0	29.0	11.7	4.8	9.0
	小豆圏域	44	15.9	31.8	38.6	36.4	38.6	13.6	6.8	29.5	18.2	4.5	6.8
	中讃圏域	432	13.9	29.4	34.0	28.9	25.0	23.4	7.2	23.8	16.2	6.0	9.7
	西讃圏域	192	14.6	30.2	37.0	27.6	25.0	22.4	9.4	22.9	18.2	3.1	8.9
居住年数別	3年未満	104	10.6	26.0	35.6	29.8	27.9	21.2	1.9	39.4	16.3	6.7	8.7
	3年以上~10年未満	164	14.0	26.8	29.3	32.3	22.6	39.6	3.7	41.5	13.4	7.3	4.3
	10年以上~20年未満	223	9.9	26.9	32.3	30.5	26.9	29.1	6.3	39.0	12.6	2.7	3.6
	20年以上	1,034	11.9	32.4	33.2	29.3	28.6	20.7	8.8	22.0	17.3	6.1	9.2

(4)お子さんの有無

問38 あなたにはお子さんがいますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(同居・別居は問いません。)

【回答者数=1,576】

1	小学校入学前の子どもがいる	6.7%
2	小学校に通う子どもがいる	7.9%
3	中学校に通う子どもがいる	6.7%
4	高等学校に通う子どもがいる	7.1%
5	大学や大学院に通う子どもがいる	6.5%
6	専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4%
7	特別支援学校に通う子どもがいる	0.4%
8	上記以外の子どもがいる	48.1%
9	子どもはいない	23.6%
	(無回答)	7.7%

お子さんの有無について、「上記以外の子どもがいる」(48.1%)が最も多く、次いで「子どもはいない」(23.6%)、「小学校に通う子どもがいる」(7.9%)、「高等学校に通う子どもがいる」(7.1%)などとなっている。

図表 5-D-(4)-1 お子さんの有無

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 小学校入学前の子どもがいる	6.7	106 人
(2) 小学校に通う子どもがいる	7.9	124 人
(3) 中学校に通う子どもがいる	6.7	105 人
(4) 高等学校に通う子どもがいる	7.1	112 人
(5) 大学や大学院に通う子どもがいる	6.5	102 人
(6) 専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4	22 人
(7) 特別支援学校に通う子どもがいる	0.4	6 人
(8) 上記以外の子どもがいる	48.1	758 人
(9) 子どもはいない	23.6	372 人
無回答	7.7	121 人

グラフ単位：(%)

お子さんの有無について、性別にみると、男女ともに「上記以外の子どもがいる」が最も多く、その比率は『男性』(46.0%)、『女性』(50.9%)となっており、これに「子どもはいない」『男性』(26.8%)、『女性』(20.9%)が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「子どもはいない」が最も多く、『30～39歳』では「小学校入学前の子どもがいる」が、そのほかの年齢では「上記以外の子どもがいる」が最も多くなっている。

職業別にみると、いずれも「上記以外の子どもがいる」が最も多く、これに「子どもはいない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「上記以外の子どもがいる」が最も多く、これに「子どもはいない」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「子どもはいない」が最も多く、『3年以上～10年未満』では「小学校入学前の子どもがいる」が、そのほかでは「上記以外の子どもがいる」が最も多くなっている。これに『3年未満』では「小学校入学前の子どもがいる」が、『3年以上～10年未満』では「小学校に通う子どもがいる」が、そのほかでは「子どもはいない」が続いている。

図表 5-D-(4)-2 お子さんの有無

		回答者数(人)	(1) 小学校入学前の子どもがいる	(2) 小学校に通う子どもがいる	(3) 中学校に通う子どもがいる	(4) 高等学校に通う子どもがいる	(5) 大学や大学院に通う子どもがいる	(6) 専修学校や各種学校に通う子どもがいる	(7) 特別支援学校に通う子どもがいる	(8) 上記以外の子どもがいる	(9) 子どもはいない	無回答
単位: 比率(%)												
全体		1,576	6.7	7.9	6.7	7.1	6.5	1.4	0.4	48.1	23.6	7.7
性別	男性	765	6.7	5.9	6.8	7.3	6.9	0.8	0.1	46.0	26.8	7.7
	女性	770	7.0	9.9	6.8	6.8	5.6	1.8	0.5	50.9	20.9	6.6
年齢別	20~29歳	79	11.4	1.3	-	-	-	-	-	2.5	83.5	2.5
	30~39歳	139	41.7	30.2	15.1	4.3	-	-	0.7	1.4	35.3	0.7
	40~49歳	199	9.5	26.1	21.6	23.1	14.6	6.0	-	14.1	27.6	3.0
	50~59歳	263	1.5	1.5	5.7	10.6	18.3	1.1	0.8	55.1	20.2	4.2
	60~69歳	405	2.2	2.7	1.5	1.5	1.2	1.0	0.2	77.8	12.3	4.7
	70歳以上	449	1.3	2.7	4.5	4.9	3.3	0.2	0.2	55.9	20.5	15.8
職業別	農林漁業	118	5.9	5.9	6.8	8.5	2.5	2.5	0.8	57.6	15.3	11.0
	商工業、サービス業、自由業など	189	8.5	9.5	7.9	7.9	6.3	1.6	-	48.7	21.7	5.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	561	10.3	12.7	10.5	11.4	10.9	2.3	0.4	37.6	25.7	3.4
	主婦・主夫	302	6.3	6.0	3.3	3.0	4.3	0.3	0.7	61.9	15.6	7.6
	無職	351	0.9	1.4	2.8	2.8	2.3	0.3	-	53.0	31.1	11.1
圏域別	高松圏域	763	6.8	7.5	6.4	7.5	5.9	1.4	0.5	46.9	24.1	7.6
	東讃圏域	145	4.8	6.9	9.7	5.5	7.6	-	-	49.0	25.5	9.0
	小豆圏域	44	6.8	9.1	9.1	6.8	9.1	-	-	45.5	25.0	2.3
	中讃圏域	432	5.8	8.1	5.6	6.5	7.6	1.9	0.2	50.2	23.8	7.4
	西讃圏域	192	9.9	9.4	7.3	8.3	4.7	1.6	0.5	47.9	19.3	8.9
居住年数別	3年未満	104	21.2	7.7	1.9	3.8	3.8	1.0	-	19.2	43.3	7.7
	3年以上~10年未満	164	25.0	24.4	12.2	6.7	4.9	1.2	0.6	23.8	22.0	4.3
	10年以上~20年未満	223	5.8	16.1	14.3	15.2	10.8	3.1	0.4	37.2	23.3	2.7
	20年以上	1,034	2.8	3.5	4.7	5.6	5.8	1.0	0.3	58.0	22.1	8.3

## 6. 県政の重要度と満足度について

県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、「せとうち田園都市香川創造プラン」※(平成23～27年度)の各施策の達成状況を評価したいと思いますので、各施策に対する重要度と満足度について皆さまの考えをお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、あなたが今の生活やこれからの生活を送っていくうえで各施策がどのくらい重要かを、また、「満足度」については、あなたが各施策に対して現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ五段階で評価してください。

### ※「せとうち田園都市香川創造プラン」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針である「せとうち田園都市香川創造プラン(平成23～27年度)」を平成23年度に策定しました。

本プランの基本目標である「せとうち田園都市の創造」(活気あふれる街と美しい自然が隣接し、生涯を通じて安心して生活できる環境の中で、人々が生きがいを見だし、みずからの能力を存分に発揮できる、また、その魅力に引かれて集い合う、瀬戸内香川の生活圏域の創造)をめざして各施策に取り組んでいます。

「せとうち田園都市の創造」を実現するための基本方針として、活力ある産業づくりと働く場の確保を主な内容とする「元気の出る香川づくり」、生涯を通じた安心の確保をめざす「安心できる香川づくり」、たくましい人づくりと魅力ある地域づくりをめざす「夢と希望あふれる香川づくり」の3つの香川づくりを掲げています。

(1)元気の出る香川づくり（重要度）

問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	33.9	32.7	18.9	1.5	0.6	12.4
2 働く場の確保と労働環境の整備	51.0	23.0	12.1	1.6	0.4	11.9
3 農林業の振興	44.9	28.7	13.6	1.0	0.3	11.6
4 水産業の振興	37.1	32.4	16.2	1.5	0.6	12.2

「元気の出る香川づくり」について【重要度】をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が6割を超えており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」(74.0%)、「農林業の振興」(73.6%)と、7割を超えている。

図表 6-(1) 元気の出る香川づくり（重要度）

	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	回答数
凡例							
商工・サービス業の振興	33.9	32.7	18.9	1.5	0.6	12.4	1,576 人
働く場の確保と労働環境の整備	51.0	23.0	12.1	1.6	0.4	11.9	1,576 人
農林業の振興	44.9	28.7	13.6	1.0	0.3	11.6	1,576 人
水産業の振興	37.1	32.4	16.2	1.5	0.6	12.2	1,576 人

グラフ単位：(%)

(2)元気の出る香川づくり（満足度）

問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.6	15.0	53.4	12.2	3.3	15.5
2 働く場の確保と労働環境の整備	0.8	10.9	45.0	20.9	7.1	15.4
3 農林業の振興	1.1	16.3	45.7	16.2	5.2	15.4
4 水産業の振興	1.6	20.5	48.5	10.2	3.6	15.6

「元気の出る香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。「商工・サービス業の振興」、「水産業の振興」については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。一方「働く場の確保と労働環境の整備」、「農林業の振興」では、【不満である】が【満足している】を上回っており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」ではその差が大きくなっている。

図表 6-(2) 元気の出る香川づくり（満足度）

	(1)とても満足している	(2)まあ満足している	(3)どちらともいえない	(4)やや不満である	(5)とても不満である	無回答	回答数
凡例							
商工・サービス業の振興	0.6	15.0	53.4	12.2	3.3	15.5	1,576 人
働く場の確保と労働環境の整備	0.8	10.9	45.0	20.9	7.1	15.4	1,576 人
農林業の振興	1.1	16.3	45.7	16.2	5.2	15.4	1,576 人
水産業の振興	1.6	20.5	48.5	10.2	3.6	15.6	1,576 人

グラフ単位：(%)

(3)安心できる香川づくり（重要度）

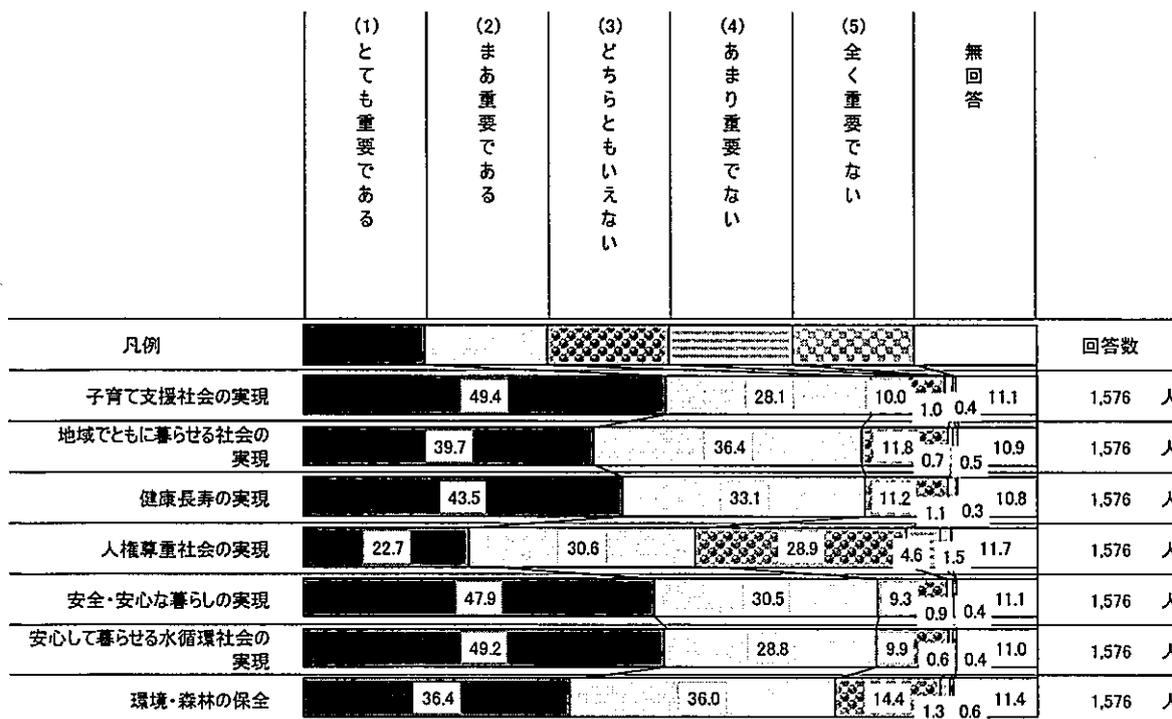
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
5 子育て支援社会の実現	49.4	28.1	10.0	1.0	0.4	11.1
6 地域でともに暮らせる社会の実現	39.7	36.4	11.8	0.7	0.5	10.9
7 健康長寿の実現	43.5	33.1	11.2	1.1	0.3	10.8
8 人権尊重社会の実現	22.7	30.6	28.9	4.6	1.5	11.7
9 安全・安心な暮らしの実現	47.9	30.5	9.3	0.9	0.4	11.1
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	49.2	28.8	9.9	0.6	0.4	11.0
11 環境・森林の保全	36.4	36.0	14.4	1.3	0.6	11.4

「安心できる香川づくり」について【重要度】をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】が7割を超えており、特に「安全・安心な暮らしの実現」、「安心して暮らせる水循環型社会の実現」、「子育て支援社会の実現」で高い割合となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（重要度）



グラフ単位：(%)

(4)安心できる香川づくり（満足度）

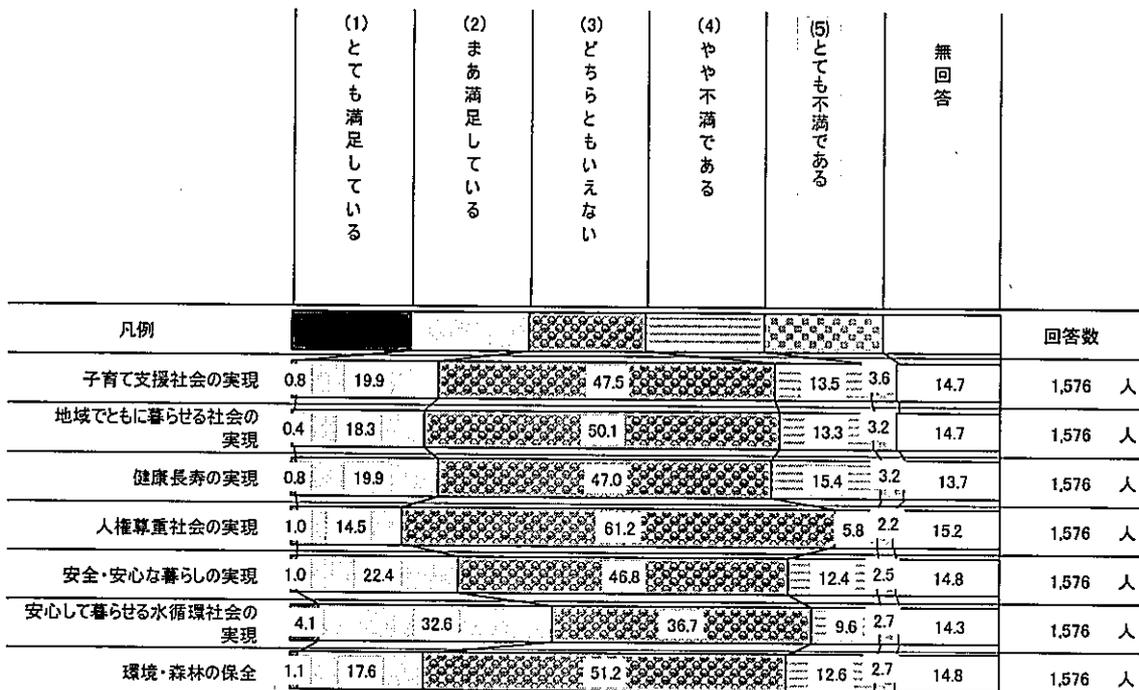
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
5 子育て支援社会の実現	0.8	19.9	47.5	13.5	3.6	14.7
6 地域でともに暮らせる社会の実現	0.4	18.3	50.1	13.3	3.2	14.7
7 健康長寿の実現	0.8	19.9	47.0	15.4	3.2	13.7
8 人権尊重社会の実現	1.0	14.5	61.2	5.8	2.2	15.2
9 安全・安心な暮らしの実現	1.0	22.4	46.8	12.4	2.5	14.8
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	4.1	32.6	36.7	9.6	2.7	14.3
11 環境・森林の保全	1.1	17.6	51.2	12.6	2.7	14.8

「安心できる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、3割を超えている。どの施策項目でも【満足している】が【不満である】を上回っている。特に「安心して暮らせる水循環型社会の実現」（36.7%）が最も多くなっており、比較的他の項目より満足度は高い結果となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（満足度）



グラフ単位：(%)

(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)

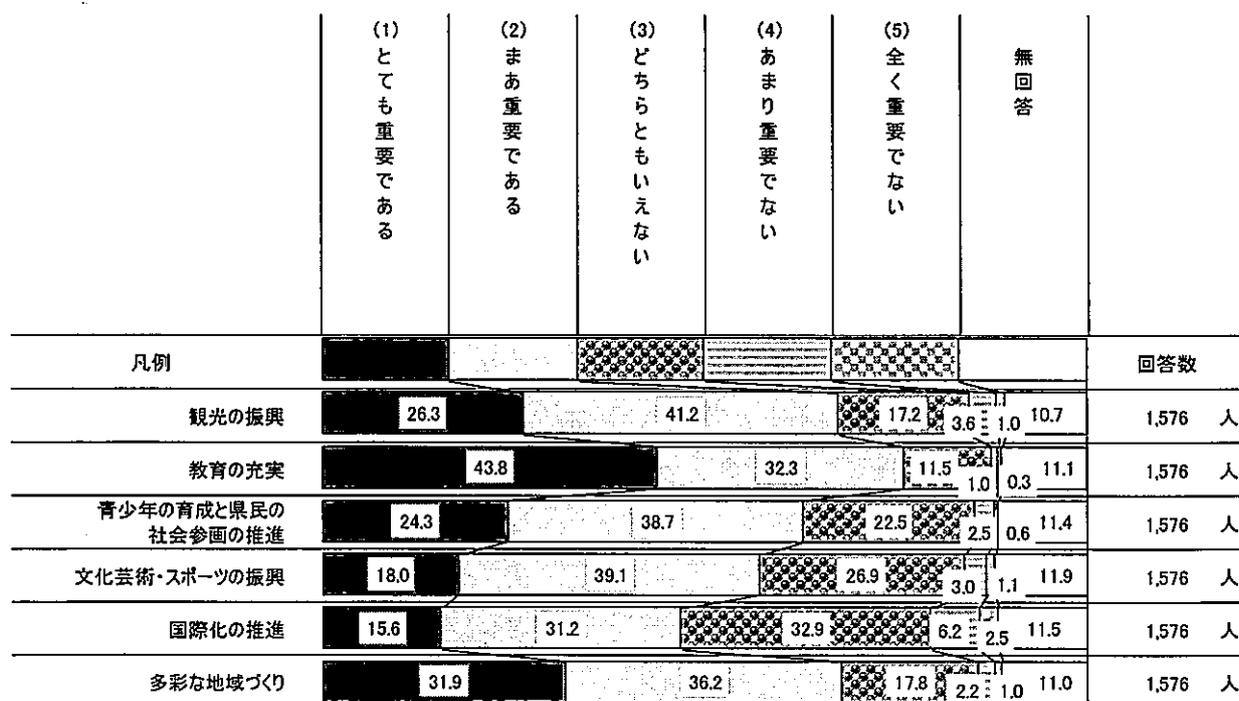
問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
12 観光の振興	26.3	41.2	17.2	3.6	1.0	10.7
13 教育の充実	43.8	32.3	11.5	1.0	0.3	11.1
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	24.3	38.7	22.5	2.5	0.6	11.4
15 文化芸術・スポーツの振興	18.0	39.1	26.9	3.0	1.1	11.9
16 国際化の推進	15.6	31.2	32.9	6.2	2.5	11.5
17 多彩な地域づくり	31.9	36.2	17.8	2.2	1.0	11.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【重要度】をみると、多くの施策項目で【重要である】が6割を超えており、特に「教育の充実」(76.1%)が7割を超えている。

図表 6-(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)



グラフ単位: (%)

(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)

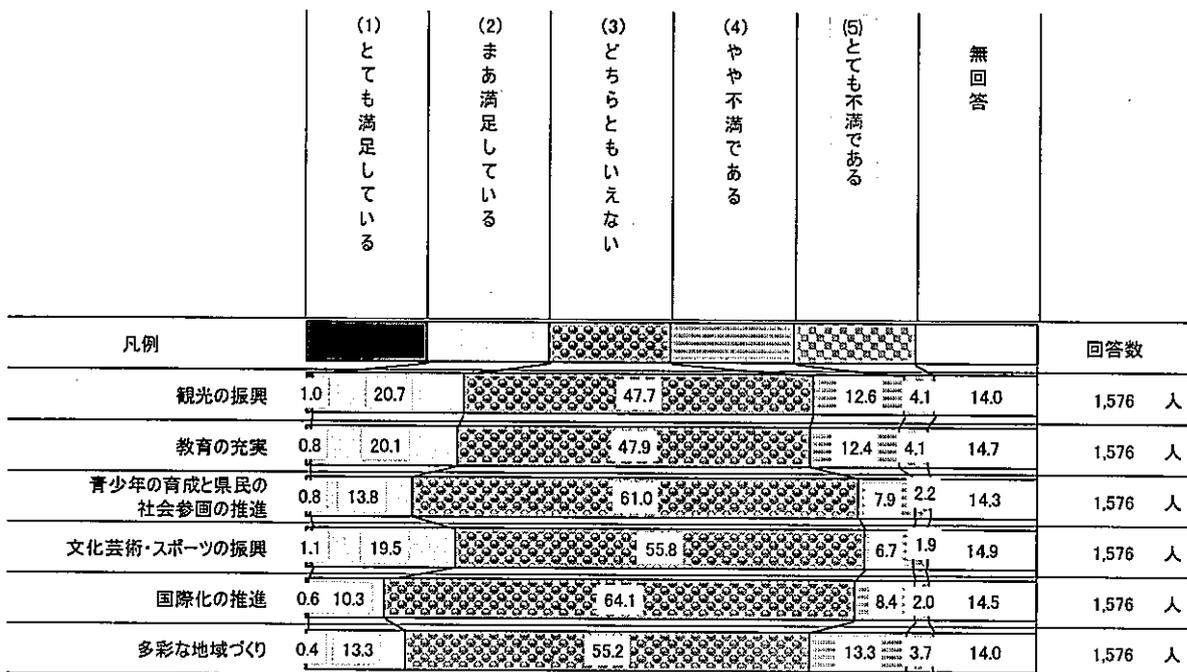
問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	満足度					無回答
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	
12 観光の振興	1.0	20.7	47.7	12.6	4.1	14.0
13 教育の充実	0.8	20.1	47.9	12.4	4.1	14.7
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	0.8	13.8	61.0	7.9	2.2	14.3
15 文化芸術・スポーツの振興	1.1	19.5	55.8	6.7	1.9	14.9
16 国際化の推進	0.6	10.3	64.1	8.4	2.0	14.5
17 多彩な地域づくり	0.4	13.3	55.2	13.3	3.7	14.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。またほとんどの施策項目で【満足している】が【不満である】を上回っているが、「多彩な地域づくり」では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 6-(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)



グラフ単位: (%)

商工・サービスの振興【重要度】について、

性別にみると、『男性』では「とても重要である」(37.5%)が、『女性』では「まあ重要である」(32.9%)が最も多くなっている。「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が「あまり重要でない」と「全く重要でない」を合わせた【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

商工・サービスの振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(52.0%)、『女性』(56.4%)となっている。『女性』では「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っているが、『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(1) 商工・サービスの振興

	<重要度>					<満足度>					回答数		
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である		(5) とても不満である	無回答
凡例													
性別	全体	389	32.7	18.9	12.4	0.6	15.0	53.4	12.2	15.5	1,576 人		
性別	男性	375	33.9	16.6	9.5	0.9	15.4	52.0	15.3	12.0	765 人		
	女性	314	32.9	21.2	13.0	0.3	15.1	56.4	9.5	16.5	770 人		
年齢別	20～29歳	342	35.4	25.5	5.1	2.5	13.9	58.2	15.2	7.6	79 人		
	30～39歳	357	37.4	16.7	4.3	0.7	12.9	64.7	11.5	5.8	139 人		
	40～49歳	417	32.7	19.6	3.5	1.0	15.6	62.3	11.6	4.5	199 人		
	50～59歳	374	38.0	19.4	4.2	0.4	14.4	59.2	16.7	4.2	263 人		
	60～69歳	380	32.1	17.8	11.6	0.2	15.3	53.3	13.3	15.3	405 人		
	70歳以上	287	30.1	18.3	22.0	0.4	16.0	45.2	9.1	24	26.7	449 人	
	職業別	農林漁業	338	36.4	15.3	13.6	0.8	21.2	50.0	11.0	16.1	118 人	
商工業、サービス業、自由業など		450	27.5	18.9	7.9	0.5	14.8	55.6	11.6	12.7	189 人		
会社、商店、官公庁などに勤務		355	38.9	19.8	3.7	0.2	15.9	58.1	16.4	4.3	561 人		
主婦・主夫		288	30.8	20.5	17.9	0.7	15.2	54.0	8.3	20.9	302 人		
無職		322	29.3	18.2	17.7	1.1	12.3	50.1	10.8	17	21.9	351 人	
圏域別	高松圏域	384	34.6	18.9	11.3	0.4	16.0	54.7	12.3	14.0	763 人		
	東讃圏域	303	33.1	22.8	11.0	0.7	17.2	51.0	12.4	6.2	12.4	145 人	
	小豆圏域	482	31.8	18.2	6.8	2.3	11.4	61.4	18.2	6.8	44 人		
	中讃圏域	350	29.4	17.8	15.0	0.5	14.1	50.7	11.1	4.2	19.4	432 人	
	西讃圏域	344	32.3	18.8	13.0	1.0	12.0	53.8	13.0	2.6	16.7	192 人	
居住年数別	3年未満	355	36.5	15.4	9.6	0.0	17.3	62.3	5.8	12.5	104 人		
	3年以上～10年未満	300	32.9	21.3	7.3	0.6	11.0	63.4	11.0	4.9	9.1	164 人	
	10年以上～20年未満	422	34.5	14.8	5.4	0.4	12.6	64.6	12.6	7.6	223 人		
	20年以上	394	32.9	19.8	13.2	0.7	16.2	50.0	13.2	3.4	16.5	1,034 人	

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

働く場の確保と労働環境の整備【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(51.2%)、『女性』(52.6%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

働く場の確保と労働環境の整備【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(46.0%)、『女性』(45.2%)となっている。男女ともに【不満である】が【満足している】を上回る結果となっている。

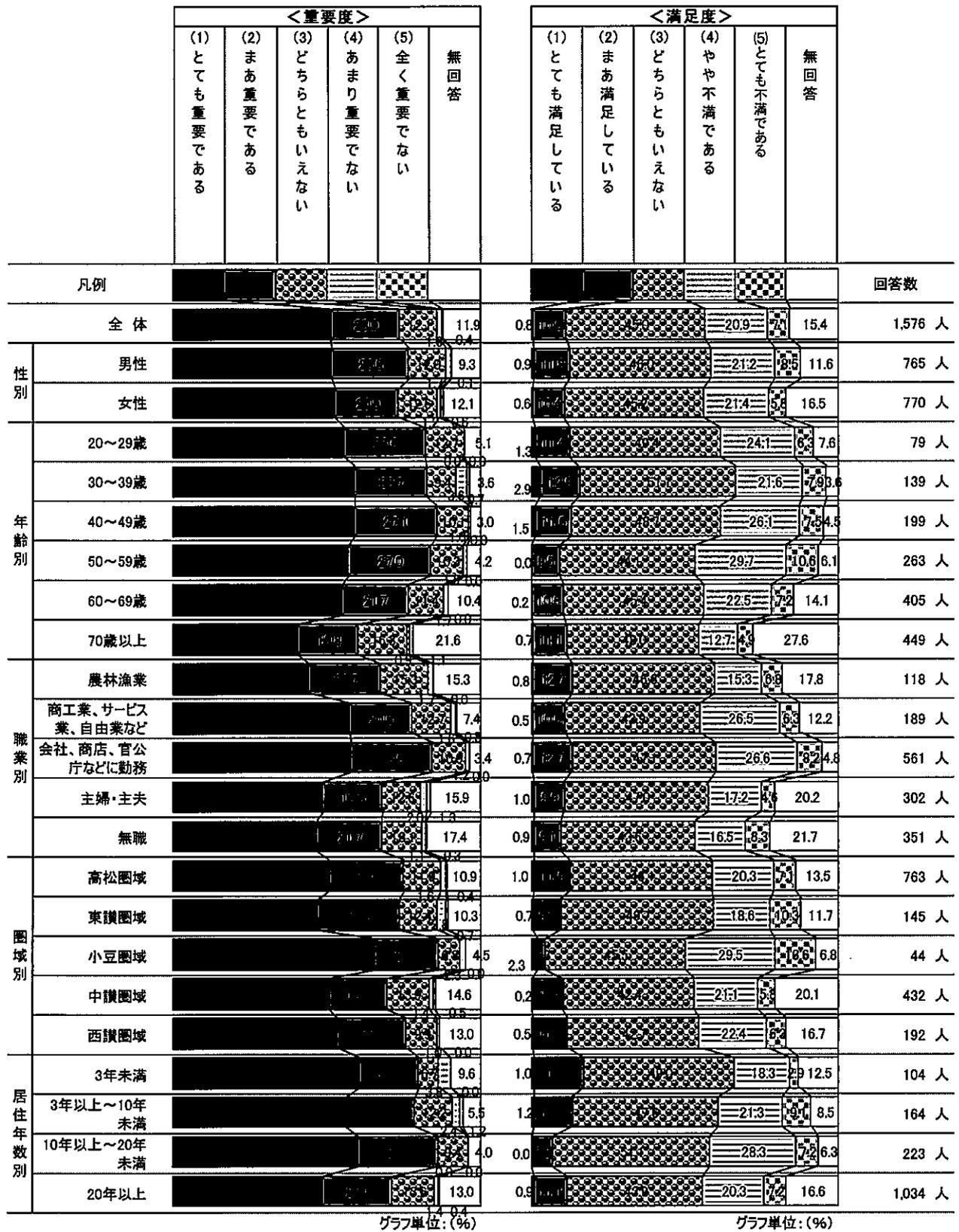
年齢別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。特に『50～59歳』では【不満である】が最も多く、【満足している】は1割にも満たない結果となっている。

職業別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】が【満足している】を最も多く上回り、満足度は低い結果となっている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。【不満である】は『小豆圏域』が最も多く、【満足している】は1割にも満たない結果となっている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。『10年以上～20年未満』では【不満である】が【満足している】を最も多く上回り、満足度は低い結果となっている。

図表 7-(2) 働く場の確保と労働環境の整備



農林業の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(45.1%)、『女性』(46.2%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「とても重要である」が最も多く、『20～29歳』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【重要である】が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「とても重要である」が最も多く、【重要である】は8割を超える結果となっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「とても重要である」(47.1%)が最も多くなっている。『10年以上～20年未満』では【重要である】(83.8%)が8割を超える結果となっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

農林業の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(45.4%)、『女性』(47.5%)となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っているが、『女性』では【満足している】が【不満である】を上回っている。

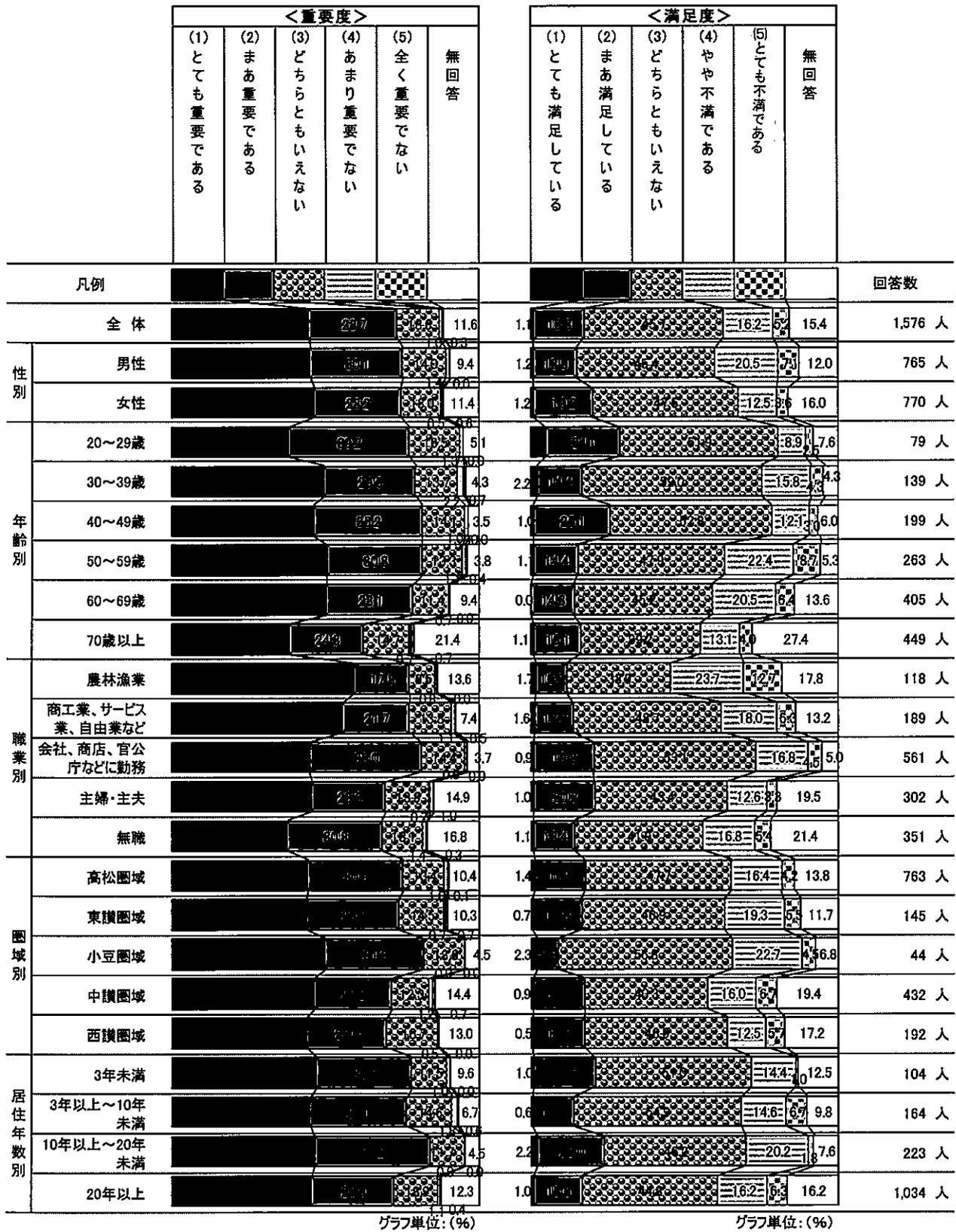
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(3) 農林業の振興



グラフ単位: (%)

グラフ単位: (%)

水産業の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(35.4%)、『女性』(40.0%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「とても重要である」が最も多く、『20～29歳』では「まあ重要である」が、『40～49歳』では「とても重要である」、「まあ重要である」が同率で最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「とても重要である」が最も多く、『無職』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「とても重要である」が最も多く、『東讃圏域』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「とても重要である」が最も多く、『3年未満』では「まあ重要である」が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

水産業の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(49.8%)、『女性』(48.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(4) 水産業の振興

	<重要度>					<満足度>					回答数		
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である		(5) とても不満である	無回答
凡例													
全体	1.6	21.4	51.9	12.2	1.8	15.6	1.6	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	1,576 人
性別													
男性	1.6	21.4	51.9	12.2	1.8	15.6	1.6	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	765 人
女性	1.6	21.4	51.9	12.2	1.8	15.6	1.6	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	770 人
年齢別													
20~29歳	1.6	21.4	51.9	12.2	1.8	15.6	1.6	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	79 人
30~39歳	0.7	19.7	51.9	12.2	1.8	15.6	0.7	19.7	51.9	12.2	1.8	15.6	139 人
40~49歳	0.5	25.1	51.9	12.2	1.8	15.6	0.5	25.1	51.9	12.2	1.8	15.6	199 人
50~59歳	1.5	21.9	51.9	12.2	1.8	15.6	1.5	21.9	51.9	12.2	1.8	15.6	263 人
60~69歳	1.2	17.0	51.9	12.2	1.8	15.6	1.2	17.0	51.9	12.2	1.8	15.6	405 人
70歳以上	2.0	26.9	51.9	12.2	1.8	15.6	2.0	26.9	51.9	12.2	1.8	15.6	449 人
職業別													
農林漁業	1.7	16.2	51.9	12.2	1.8	15.6	1.7	16.2	51.9	12.2	1.8	15.6	118 人
商工業、サービス業、自由業など	1.1	16.9	51.9	12.2	1.8	15.6	1.1	16.9	51.9	12.2	1.8	15.6	189 人
会社、商店、官公庁などに勤務	1.2	24.1	51.9	12.2	1.8	15.6	1.2	24.1	51.9	12.2	1.8	15.6	561 人
主婦・主夫	2.6	24.2	51.9	12.2	1.8	15.6	2.6	24.2	51.9	12.2	1.8	15.6	302 人
無職	1.7	16.2	51.9	12.2	1.8	15.6	1.7	16.2	51.9	12.2	1.8	15.6	351 人
圏域別													
高松圏域	2.0	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	2.0	21.7	51.9	12.2	1.8	15.6	763 人
東讃圏域	0.7	19.7	51.9	12.2	1.8	15.6	0.7	19.7	51.9	12.2	1.8	15.6	145 人
小豆圏域	2.3	20.5	51.9	12.2	1.8	15.6	2.3	20.5	51.9	12.2	1.8	15.6	44 人
中讃圏域	1.9	12.3	51.9	12.2	1.8	15.6	1.9	12.3	51.9	12.2	1.8	15.6	432 人
西讃圏域	0.8	17.3	51.9	12.2	1.8	15.6	0.8	17.3	51.9	12.2	1.8	15.6	192 人
居住年数別													
3年未満	1.0	21.3	51.9	12.2	1.8	15.6	1.0	21.3	51.9	12.2	1.8	15.6	104 人
3年以上~10年未満	1.2	11.0	51.9	12.2	1.8	15.6	1.2	11.0	51.9	12.2	1.8	15.6	164 人
10年以上~20年未満	2.7	19.0	51.9	12.2	1.8	15.6	2.7	19.0	51.9	12.2	1.8	15.6	223 人
20年以上	1.5	21.3	51.9	12.2	1.8	15.6	1.5	21.3	51.9	12.2	1.8	15.6	1,034 人

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

子育て支援社会の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(46.7%)、『女性』(53.4%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『3年以上～10年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

子育て支援社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(50.5%)、『女性』(45.8%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(5) 子育て支援社会の実現

	<重要度>						<満足度>						回答数
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	
凡例													
全体	0.8	10.0	7.7	13.5	6.9	11.1	0.8	10.0	7.7	13.5	6.9	14.7	1,576 人
性別													
男性	0.9	10.3	7.7	13.5	6.7	9.5	0.9	10.3	7.7	13.5	6.7	12.3	765 人
女性	0.8	10.4	7.7	13.5	7.2	10.5	0.8	10.4	7.7	13.5	7.2	15.2	770 人
年齢別													
20~29歳	1.3	10.2	7.7	11.4	7.6	6.3	1.3	10.2	7.7	11.4	7.6	8.9	79 人
30~39歳	2.9	10.6	7.7	9.4	6.6	4.4	2.9	10.6	7.7	9.4	6.6	2.9	139 人
40~49歳	0.5	10.1	7.7	19.1	5.0	2.5	0.5	10.1	7.7	19.1	5.0	2.5	199 人
50~59歳	0.4	10.7	7.7	14.8	4.4	6.1	0.4	10.7	7.7	14.8	4.4	7.6	263 人
60~69歳	0.2	10.7	7.7	14.3	3.0	7.9	0.2	10.7	7.7	14.3	3.0	12.6	405 人
70歳以上	1.1	10.6	7.7	8.2	26.7	21.2	1.1	10.6	7.7	8.2	26.7	26.7	449 人
職業別													
農林漁業	2.5	10.6	7.7	9.3	13.6	10.2	2.5	10.6	7.7	9.3	13.6	13.6	118 人
商工業、サービス業、自由業など	1.1	10.6	7.7	14.8	15.3	9.5	1.1	10.6	7.7	14.8	15.3	15.3	189 人
会社、商店、官公庁などに勤務	0.4	10.1	7.7	18.4	5.2	13.2	0.4	10.1	7.7	18.4	5.2	5.2	561 人
主婦・主夫	0.7	10.5	7.7	15.3	17.9	13.2	0.7	10.5	7.7	15.3	17.9	17.9	302 人
無職	1.1	10.4	7.7	8.3	21.1	17.4	1.1	10.4	7.7	8.3	21.1	21.1	351 人
圏域別													
高松圏域	0.8	10.1	7.7	13.2	12.5	9.4	0.8	10.1	7.7	13.2	12.5	12.5	763 人
東讃圏域	0.7	10.1	7.7	16.6	12.4	9.7	0.7	10.1	7.7	16.6	12.4	12.4	145 人
小豆圏域	2.3	10.1	7.7	13.6	9.1	6.8	2.3	10.1	7.7	13.6	9.1	9.1	44 人
中讃圏域	0.7	10.1	7.7	13.7	19.2	15.0	0.7	10.1	7.7	13.7	19.2	19.2	432 人
西讃圏域	1.0	10.1	7.7	11.5	16.7	10.9	1.0	10.1	7.7	11.5	16.7	16.7	192 人
居住年数別													
3年未満	0.0	10.1	7.7	16.3	13.5	10.6	0.0	10.1	7.7	16.3	13.5	13.5	104 人
3年以上~10年未満	1.2	10.1	7.7	18.3	8.5	5.5	1.2	10.1	7.7	18.3	8.5	8.5	164 人
10年以上~20年未満	0.4	10.1	7.7	15.7	6.7	5.4	0.4	10.1	7.7	15.7	6.7	6.7	223 人
20年以上	1.0	10.1	7.7	11.9	15.8	11.5	1.0	10.1	7.7	11.9	15.8	15.8	1,034 人

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

地域でともに暮らせる社会の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(38.2%)、『女性』(42.2%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

地域でともに暮らせる社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(52.7%)、『女性』(49.0%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『西讃圏域』では【満足している】、【不満である】が同率となっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(6) 地域でともに暮らせる社会の実現

	＜重要度＞					＜満足度＞					回答数		
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である		(5) とても不満である	無回答
凡例													
全体	0.4	10.9	0.5	13.3	14.7	0.4	13.3	14.7	15.0	14.7	15.0	1576 人	
性別	男性	0.5	9.4	0.5	14.0	12.3	0.8	12.0	14.0	12.3	12.3	765 人	
	女性	0.1	10.3	0.5	13.0	14.8	0.1	13.0	14.8	14.8	14.8	770 人	
年齢別	20～29歳	1.3	6.3	0.0	11.4	8.9	1.3	11.4	11.4	8.9	8.9	79 人	
	30～39歳	0.7	12.2	0.4	12.2	14.3	0.7	12.2	16.5	14.3	14.3	139 人	
	40～49歳	0.0	13.0	0.4	15.6	16.5	0.0	15.6	16.5	16.5	16.5	199 人	
	50～59歳	0.4	6.7	0.0	16.0	8.0	0.4	16.0	16.0	8.0	8.0	263 人	
	60～69歳	0.0	8.4	0.0	15.3	12.3	0.0	15.3	15.3	12.3	12.3	405 人	
	70歳以上	0.9	19.6	0.0	8.9	24.9	0.9	8.9	8.9	24.9	24.9	449 人	
	職業別												
農林漁業	2.7	9.3	0.0	13.6	13.6	2.7	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6	118 人	
商工業、サービス業、自由業など	0.5	9.0	0.0	12.7	15.9	0.5	12.7	12.7	15.9	15.9	15.9	189 人	
会社、商店、官公庁などに勤務	0.2	13.6	0.0	16.0	15.7	0.2	16.0	16.0	15.7	15.7	561 人		
主婦・主夫	0.0	12.6	0.0	12.6	17.2	0.0	12.6	12.6	17.2	17.2	302 人		
無職	0.6	16.5	0.0	10.8	19.9	0.6	10.8	10.8	19.9	19.9	351 人		
圏域別													
高松圏域	0.5	8.8	0.0	13.6	12.1	0.5	13.6	13.6	12.1	12.1	12.1	763 人	
東讃圏域	0.0	9.0	0.0	14.5	11.7	0.0	14.5	14.5	11.7	11.7	11.7	145 人	
小豆圏域	2.3	9.1	0.0	11.4	9.1	2.3	11.4	11.4	9.1	9.1	9.1	44 人	
中讃圏域	0.2	15.3	0.0	11.8	20.1	0.2	11.8	11.8	20.1	20.1	432 人		
西讃圏域	0.5	11.5	0.0	15.1	16.1	0.5	15.1	15.1	16.1	16.1	192 人		
居住年数別													
3年未満	0.0	10.6	0.0	15.4	13.5	0.0	15.4	15.4	13.5	13.5	13.5	104 人	
3年以上～10年未満	0.6	6.1	0.0	14.0	10.4	0.6	14.0	14.0	10.4	10.4	10.4	164 人	
10年以上～20年未満	0.4	5.8	0.0	14.3	7.6	0.4	14.3	14.3	7.6	7.6	223 人		
20年以上	0.5	10.9	0.0	13.2	15.0	0.5	13.2	13.2	15.0	15.0	1,034 人		

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

健康長寿の実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(39.9%)、『女性』(48.6%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

健康長寿の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(48.1%)、『女性』(46.9%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を大きく上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(7) 健康長寿の実現

		＜重要度＞					＜満足度＞							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
性別	全体	0.8	15.4	13.7	10.8	0.8	1576							
	男性	1.0	15.0	11.8	9.2	0.4	765							
	女性	0.4	16.1	13.8	10.3	0.7	770							
年齢別	20～29歳	2.1	16.5	8.9	6.3	0.2	79							
	30～39歳	0.7	17.3	4.3	2.2	0.7	139							
	40～49歳	0.9	18.1	6.0	3.0	0.7	199							
	50～59歳	0.9	19.0	7.2	5.7	0.7	263							
	60～69歳	0.5	17.5	12.1	8.9	0.5	405							
	70歳以上	1.3	22.1	23.2	18.9	1.3	449							
	職業別	農林漁業	3.0	16.1	11.9	11.0	3.0	118						
商工業、サービス業、自由業など		1.1	13.8	14.3	8.5	1.1	189							
会社、商店、官公庁などに勤務		0.2	17.8	5.3	3.6	0.2	561							
主婦・主夫		0.7	16.9	17.2	13.6	0.7	302							
無職		0.6	12.0	18.2	15.4	0.6	351							
圏域別	高松圏域	0.5	15.6	11.8	9.7	0.5	763							
	東讃圏域	0.7	13.1	11.0	7.6	0.7	145							
	小豆圏域	2.3	34.1	9.1	6.8	2.3	44							
	中讃圏域	1.2	12.5	18.1	14.4	1.2	432							
	西讃圏域	0.5	18.2	14.6	10.4	0.5	192							
居住年数別	3年未満	1.0	14.4	13.5	10.6	1.0	104							
	3年以上～10年未満	1.2	17.1	9.8	6.1	1.2	164							
	10年以上～20年未満	0.9	13.9	7.6	5.4	0.9	223							
	20年以上	0.8	16.0	13.9	10.9	0.8	1034							

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

人権尊重社会の実現【重要度】について、

性別にみると、『男性』では「どちらともいえない」(30.6%)が、『女性』では「まあ重要である」(31.9%)が最も多くなっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『西讃圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『3年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

人権尊重社会の実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(62.5%)、『女性』(61.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(8) 人権尊重社会の実現

		＜重要度＞					＜満足度＞							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	
凡例														回答数
性別	全体	1.0	6.0	34.6	34.6	11.7	1.0	1.0	5.8	21.5	5.8	21.5	1,576 人	
	男性	1.0	6.2	34.6	34.6	10.1	1.0	1.0	6.3	21.7	6.3	21.7	765 人	
	女性	0.9	5.9	34.6	34.6	11.4	0.9	1.0	5.6	21.5	5.6	21.5	770 人	
年齢別	20～29歳	1.3	6.7	34.6	34.6	6.3	1.3	1.0	8.9	10.1	8.9	10.1	79 人	
	30～39歳	1.0	2.7	34.6	34.6	2.2	1.0	1.0	3.0	4.3	3.0	4.3	139 人	
	40～49歳	1.0	3.2	34.6	34.6	3.0	1.0	1.0	3.4	5.5	3.4	5.5	199 人	
	50～59歳	0.4	3.9	34.6	34.6	5.7	0.4	1.0	7.6	7.2	7.6	7.2	263 人	
	60～69歳	0.5	3.4	34.6	34.6	10.4	0.5	1.0	6.2	13.8	6.2	13.8	405 人	
	70歳以上	0.9	2.7	34.6	34.6	21.2	0.9	1.0	3.8	26.7	3.8	26.7	449 人	
	職業別	農林漁業	0.8	3.2	34.6	34.6	10.2	0.8	1.0	5.9	15.3	5.9	15.3	118 人
商工業、サービス業、自由業など		1.1	2.9	34.6	34.6	9.0	1.1	1.0	9.0	15.3	9.0	15.3	189 人	
会社、商店、官公庁などに勤務		1.2	3.2	34.6	34.6	3.9	1.2	1.0	7.8	5.9	7.8	5.9	561 人	
主婦・主夫		0.7	2.9	34.6	34.6	14.6	0.7	1.0	4.1	19.5	4.1	19.5	302 人	
無職		0.9	2.9	34.6	34.6	17.9	0.9	1.0	1.7	20.5	1.7	20.5	351 人	
圏域別	高松圏域	1.0	3.0	34.6	34.6	9.8	1.0	1.0	5.7	13.6	5.7	13.6	763 人	
	東讃圏域	0.7	3.4	34.6	34.6	9.0	0.7	1.0	6.2	12.4	6.2	12.4	145 人	
	小豆圏域	2.3	2.7	34.6	34.6	9.1	2.3	1.0	6.8	9.1	6.8	9.1	44 人	
	中讃圏域	1.2	3.5	34.6	34.6	15.7	1.2	1.0	6.9	18.8	6.9	18.8	432 人	
	西讃圏域	0.8	3.6	34.6	34.6	13.0	0.8	1.0	4.5	17.2	4.5	17.2	192 人	
居住年数別	3年未満	0.0	3.3	34.6	34.6	10.6	0.0	1.0	8.7	14.4	8.7	14.4	104 人	
	3年以上～10年未満	1.8	3.4	34.6	34.6	6.7	1.8	1.0	8.5	11.0	8.5	11.0	164 人	
	10年以上～20年未満	1.3	3.2	34.6	34.6	6.3	1.3	1.0	4.4	7.6	4.4	7.6	223 人	
	20年以上	0.9	3.0	34.6	34.6	12.1	0.9	1.0	5.7	15.9	5.7	15.9	1,034 人	

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

安全・安心な暮らしの実現【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(46.5%)、『女性』(50.4%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

安全・安心な暮らしの実現【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.2%)、『女性』(47.5%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

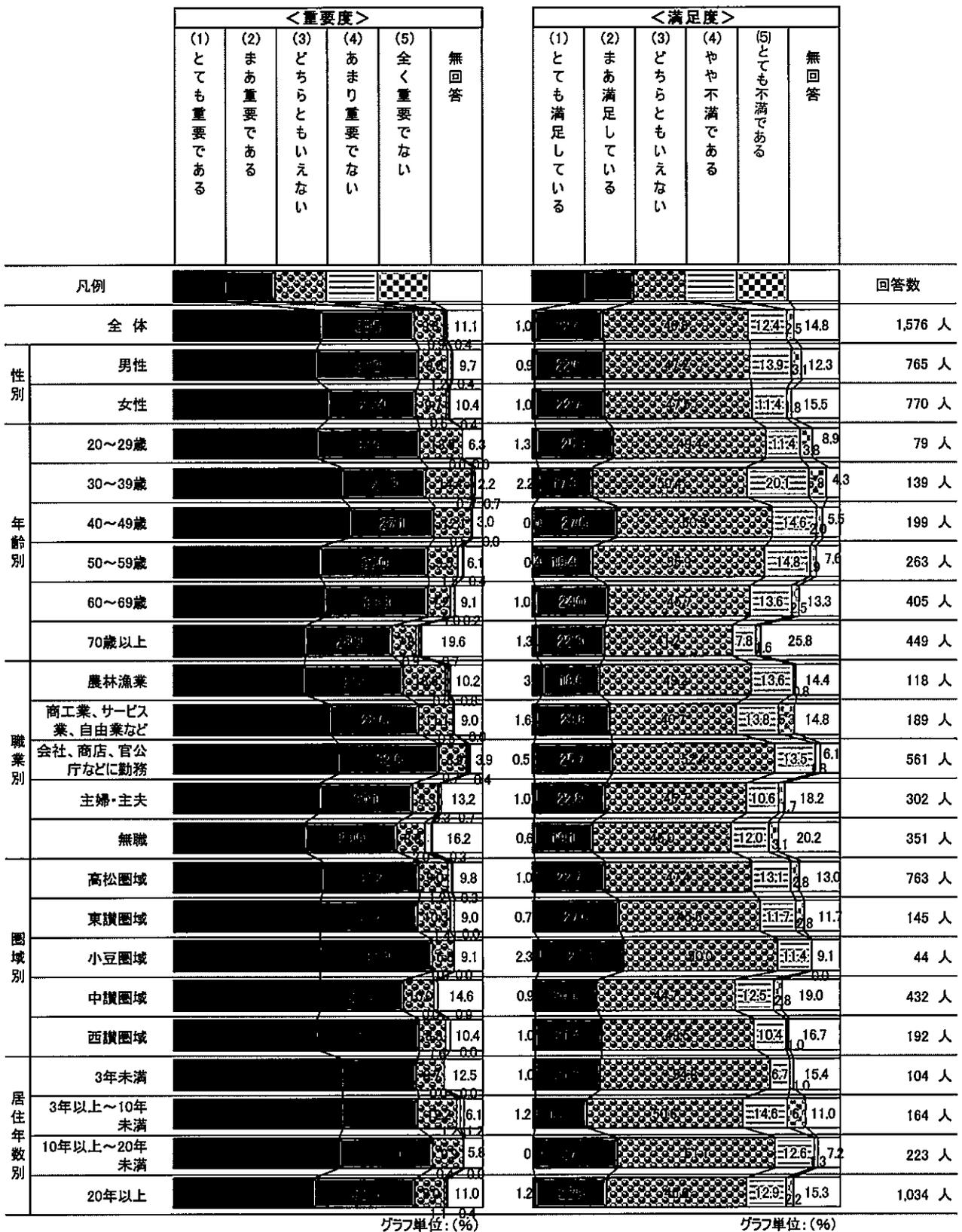
年齢別にみると、『30～39歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかでは【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(9) 安全・安心な暮らしの実現



グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

安心して暮らせる水循環社会の実現【重要度】について、性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(47.6%)、『女性』(52.3%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。年齢別にみると、【重要である】は『40～49歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

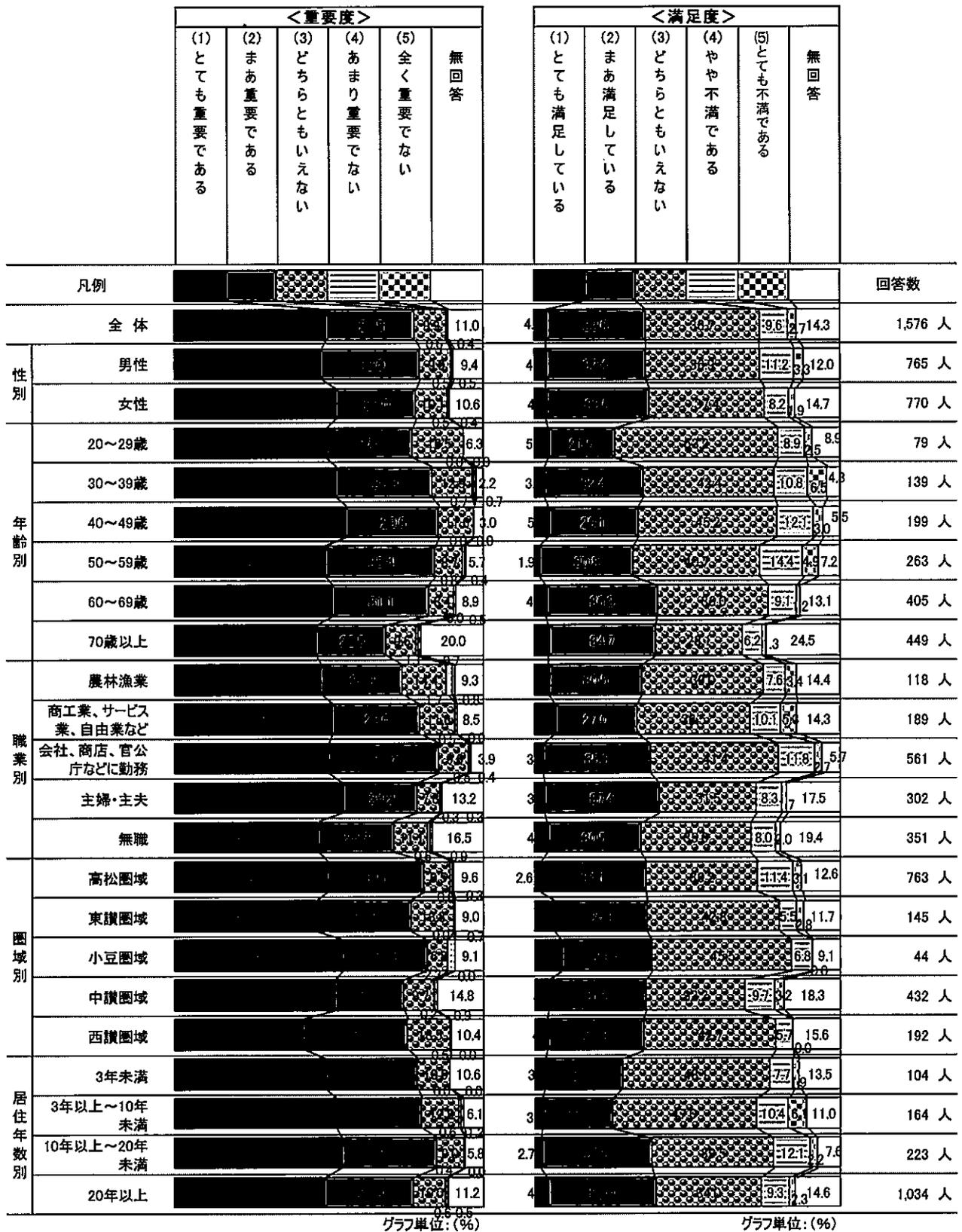
職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

安心して暮らせる水循環社会の実現【満足度】について、性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(36.9%)、『女性』(37.4%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を大きく上回っている。

図表 7-(10) 安心して暮らせる水循環社会の実現



グラフ単位: (%)

グラフ単位: (%)

環境・森林の保全【重要度】について、

性別にみると、『男性』では「まあ重要である」(40.4%)が、『女性』では「とても重要である」(39.9%)が最も多くなっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

環境・森林の保全【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、『男性』(51.8%)、『女性』(51.7%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(11) 環境・森林の保全

		＜重要度＞					＜満足度＞							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
全体		11.4	37.6	26.7	17.7	6.3	11.4	12.6	37.7	22.6	14.8	7.1	1576人	
性別	男性	9.8	40.6	27.1	17.8	5.8	9.8	17.4	34.0	24.3	12.3	1.2	765人	
	女性	10.9	34.5	26.3	17.8	6.2	10.9	17.6	31.7	21.5	11.5	1.2	770人	
年齢別	20～29歳	6.3	37.9	27.4	19.3	9.3	6.3	17.7	30.0	28.9	13.9	8.9	79人	
	30～39歳	2.2	33.9	27.1	19.4	11.4	2.2	17.7	34.0	24.3	12.3	1.2	139人	
	40～49歳	3.0	37.7	26.5	17.5	15.3	3.0	17.7	30.6	25.5	11.7	1.2	199人	
	50～59歳	5.7	40.6	27.1	17.8	6.8	5.7	17.7	31.6	27.2	15.6	1.2	263人	
	60～69歳	8.9	37.8	27.1	17.8	7.4	8.9	17.7	34.8	21.7	13.1	1.2	405人	
	70歳以上	21.2	32.1	27.1	17.8	2.6	21.2	17.7	32.2	12.3	26.3	1.2	449人	
	職業別	農林漁業	9.3	37.1	27.1	17.8	10.8	9.3	17.7	22.0	21.5	13.6	1.2	118人
商工業、サービス業、自由業など	8.5	37.7	27.1	17.8	8.9	8.5	17.7	30.1	21.4	14.3	1.2	189人		
会社、商店、官公庁などに勤務	3.7	37.7	27.1	17.8	13.7	3.7	17.7	33.9	21.5	15.7	1.2	561人		
主婦・主夫	13.2	37.1	27.1	17.8	5.8	13.2	17.7	32.3	21.3	18.2	1.2	302人		
無職	18.2	37.1	27.1	17.8	8.8	18.2	17.7	30.5	21.6	21.4	1.2	351人		
圏域別	高松圏域	9.6	37.1	27.1	17.8	11.4	9.6	17.7	30.6	21.0	13.0	1.2	763人	
	東讃圏域	9.0	37.1	27.1	17.8	11.0	9.0	17.7	33.8	21.7	11.7	1.2	145人	
	小豆圏域	9.1	37.1	27.1	17.8	11.0	9.1	17.7	35.9	21.0	9.1	1.2	44人	
	中讃圏域	15.5	37.1	27.1	17.8	11.1	15.5	17.7	33.9	21.7	19.0	1.2	432人	
	西讃圏域	11.5	37.1	27.1	17.8	11.1	11.5	17.7	35.6	21.0	16.7	1.2	192人	
居住年数別	3年未満	10.6	37.1	27.1	17.8	11.5	10.6	17.7	39.6	21.0	13.5	1.2	104人	
	3年以上～10年未満	6.1	37.1	27.1	17.8	11.1	6.1	17.7	31.0	21.0	11.0	1.2	164人	
	10年以上～20年未満	6.3	37.1	27.1	17.8	11.1	6.3	17.7	30.8	21.0	7.6	1.2	223人	
	20年以上	11.6	37.1	27.1	17.8	11.1	11.6	17.7	34.0	21.0	15.4	1.2	1034人	

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

観光の振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(42.5%)、『女性』(40.6%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

観光の振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.3%)、『女性』(49.1%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『50～59歳』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『無職』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(12) 観光の振興

	<重要度>						<満足度>						回答数	
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答		
凡例														
全体	1.0	29.7	41.2	17.2	1.7	10.7	1.0	29.7	41.2	17.2	1.7	14.0	1,576 人	
性別	男性	1.0	29.0	41.5	17.3	9.3	1.0	29.0	41.5	17.3	9.3	11.8	765 人	
	女性	0.9	29.9	40.9	16.9	1.8	10.1	0.9	29.9	40.9	16.9	1.8	14.0	770 人
年齢別	20~29歳	0.8	29.1	41.2	17.2	0.8	6.3	0.8	29.1	41.2	17.2	0.8	8.9	79 人
	30~39歳	2.2	1.4	29.0	41.6	25.8	2.2	1.4	29.0	41.6	25.8	2.2	139 人	
	40~49歳	0.9	29.1	41.7	17.0	1.3	6.5	0.9	29.1	41.7	17.0	1.3	199 人	
	50~59歳	0.6	29.4	41.7	17.0	1.3	5.7	0.6	29.4	41.7	17.0	1.3	263 人	
	60~69歳	0.7	29.2	41.7	17.0	1.3	8.6	0.7	29.2	41.7	17.0	1.3	405 人	
	70歳以上	1.1	29.5	41.7	17.0	1.3	19.4	1.1	29.5	41.7	17.0	1.3	449 人	
	職業別	農林漁業	4.1	17.9	41.7	17.0	1.3	9.3	4.1	17.9	41.7	17.0	1.3	118 人
商工業、サービス業、自由業など		0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	7.4	0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	189 人	
会社、商店、官公庁などに勤務		0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	3.9	0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	561 人	
主婦・主夫		0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	12.6	0.6	29.1	41.7	17.0	1.3	302 人	
無職		1.1	29.5	41.7	17.0	1.3	16.5	1.1	29.5	41.7	17.0	1.3	351 人	
圏域別	高松圏域	0.9	29.1	41.7	17.0	1.3	9.3	0.9	29.1	41.7	17.0	1.3	763 人	
	東讃圏域	0.7	29.2	41.7	17.0	1.3	8.3	0.7	29.2	41.7	17.0	1.3	145 人	
	小豆圏域	4.1	17.9	41.7	17.0	1.3	6.8	4.1	17.9	41.7	17.0	1.3	44 人	
	中讃圏域	0.5	29.3	41.7	17.0	1.3	14.6	0.5	29.3	41.7	17.0	1.3	432 人	
	西讃圏域	1.6	29.6	41.7	17.0	1.3	10.4	1.6	29.6	41.7	17.0	1.3	192 人	
	居住年数別	3年未満	1.0	29.7	41.2	17.2	10.7	1.0	29.7	41.2	17.2	10.7	14.0	104 人
3年以上~10年未満		0.6	29.4	41.7	17.0	1.3	5.5	0.6	29.4	41.7	17.0	1.3	164 人	
10年以上~20年未満		1.3	29.0	41.6	17.3	0.8	6.3	1.3	29.0	41.6	17.3	0.8	223 人	
20年以上		1.0	29.7	41.2	17.2	10.7	1.0	29.7	41.2	17.2	10.7	14.0	1,034 人	

グラフ単位: (%)

グラフ単位: (%)

教育の充実【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「とても重要である」が最も多く、その比率は『男性』(43.5%)、『女性』(45.2%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『30～39歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『会社、商店、官公庁などに勤務』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

教育の充実【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(47.7%)、『女性』(49.4%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの職業では【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの圏域では【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(13) 教育の充実

		＜重要度＞					＜満足度＞							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
性別	全体	32.3	30.3	11.1	11.1	0.8	29.1	23.4	12.4	14.7	14.7	0.8	1,576 人	
	男性	34.4	28.4	9.3	12.3	0.3	29.9	23.5	13.5	12.3	12.3	0.3	765 人	
	女性	31.1	31.1	10.8	10.8	0.4	28.9	23.3	11.6	14.9	14.9	0.4	770 人	
年齢別	20～29歳	30.7	30.7	6.3	3.0	3.0	29.6	23.9	13.9	8.9	8.9	0.0	79 人	
	30～39歳	30.7	30.7	1.4	1.4	1.4	29.7	23.8	10.8	10.5	10.5	2.2	139 人	
	40～49歳	29.6	29.6	2.5	0.0	0.0	29.1	20.1	20.1	4.5	4.5	0.0	199 人	
	50～59歳	31.3	31.3	6.1	2.0	2.0	29.3	17.5	17.5	17.6	17.6	0.0	263 人	
	60～69歳	35.3	35.3	1.4	0.5	0.5	29.2	11.1	11.1	14.1	14.1	0.0	405 人	
	70歳以上	28.7	28.7	20.3	1.1	1.1	29.4	7.8	7.8	25.4	25.4	0.0	449 人	
	職業別	農林漁業	28.6	28.6	9.3	3.0	3.0	29.6	12.7	12.7	13.6	13.6	0.0	118 人
商工業、サービス業、自由業など		35.6	35.6	7.4	0.5	0.5	29.6	14.8	14.8	12.2	12.2	0.0	189 人	
会社、商店、官公庁などに勤務		35.6	35.6	3.7	0.4	0.4	29.0	16.4	16.4	5.3	5.3	0.0	561 人	
主婦・主夫		32.1	32.1	13.9	0.3	0.3	29.9	7.3	7.3	18.9	18.9	0.0	302 人	
無職		34.2	34.2	17.1	1.1	1.1	29.3	9.7	9.7	21.4	21.4	0.0	351 人	
圏域別	高松圏域	31.0	31.0	9.6	0.9	0.9	29.0	11.3	11.3	12.7	12.7	0.0	763 人	
	東讃圏域	31.2	31.2	9.0	0.7	0.7	29.3	19.3	19.3	12.4	12.4	0.0	145 人	
	小豆圏域	31.0	31.0	9.1	2.3	2.3	29.0	6.8	6.8	9.1	9.1	0.0	44 人	
	中讃圏域	31.0	31.0	14.8	0.7	0.7	29.3	12.3	12.3	18.5	18.5	0.0	432 人	
	西讃圏域	31.0	31.0	10.9	0.5	0.5	29.3	13.5	13.5	16.7	16.7	0.0	192 人	
	3年未満	31.0	31.0	10.6	0.0	0.0	29.3	12.5	12.5	13.5	13.5	0.0	104 人	
居住年数別	3年以上～10年未満	31.0	31.0	5.5	0.6	0.6	29.3	16.5	16.5	8.5	8.5	0.0	164 人	
	10年以上～20年未満	31.0	31.0	5.3	0.0	0.0	29.3	13.9	13.9	8.1	8.1	0.0	223 人	
	20年以上	31.0	31.0	11.3	1.1	1.1	29.3	11.6	11.6	15.3	15.3	0.0	1,034 人	

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

青少年の育成と県民の社会参画の推進【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(41.7%)、『女性』(36.8%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(63.4%)、『女性』(60.0%)となっている。男女ともに【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『50～59歳』では【不満である】が【満足している】を上回っている。そのほかの年齢では【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(14) 青少年の育成と県民の社会参画の推進

		＜重要度＞					＜満足度＞							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
性別	全体	35.7	37.7	11.4	11.4	3.8	0.8	11.3	33.6	33.6	7.9	214.3	1,576 人	
	男性	40.7	32.4	9.8	11.4	3.7	0.8	11.3	34.4	29.6	8.4	12.0	765 人	
	女性	25.9	42.9	10.9	11.4	4.1	0.8	11.3	32.8	37.5	14.5	770 人		
年齢別	20～29歳	31.9	36.3	6.3	11.4	13.9	2.1	10.7	39.7	38.9	8.9	79 人		
	30～39歳	31.3	32.2	11.4	11.4	10.9	0.7	10.7	37.2	39.0	2.9	139 人		
	40～49歳	45.2	22.2	10.0	11.4	9.2	0.0	10.7	37.5	35.5	5.5	199 人		
	50～59歳	47.3	16.5	11.4	11.4	15.5	0.4	10.7	38.0	38.0	8.0	263 人		
	60～69歳	49.2	8.6	11.4	11.4	20.7	0.2	10.7	39.1	39.1	12.3	405 人		
	70歳以上	37.5	17.7	20.7	11.4	13.7	1.3	10.7	36.9	24.9	6.9	449 人		
	職業別	農林漁業	37.1	10.2	11.4	11.4	28.7	2.1	10.7	31.0	31.0	11.9	118 人	
商工業、サービス業、自由業など		41.9	8.5	11.4	11.4	17.7	0.9	10.7	31.6	31.6	13.2	189 人		
会社、商店、官公庁などに勤務		46.7	4.1	11.4	11.4	33.4	0.2	10.7	39.6	39.6	5.3	561 人		
主婦・主夫		39.4	13.2	11.4	11.4	24.6	1.0	10.7	31.1	31.1	17.5	302 人		
無職		37.1	17.7	11.4	11.4	22.4	0.9	10.7	30.1	30.1	21.1	351 人		
圏域別	高松圏域	32.7	9.8	11.4	11.4	34.7	0.7	10.7	37.9	37.9	12.5	763 人		
	東讃圏域	38.3	8.3	11.4	11.4	22.6	0.7	10.7	31.7	31.7	11.0	145 人		
	小豆圏域	37.1	6.8	11.4	11.4	32.7	2.1	10.7	34.3	34.3	9.1	44 人		
	中讃圏域	37.1	15.3	11.4	11.4	24.6	0.7	10.7	37.9	37.9	18.8	432 人		
	西讃圏域	37.1	12.0	11.4	11.4	28.3	1.0	10.7	35.7	35.7	15.6	192 人		
居住年数別	3年未満	37.1	10.6	11.4	11.4	29.5	0.9	10.7	37.7	37.7	12.5	104 人		
	3年以上～10年未満	37.1	7.3	11.4	11.4	32.8	0.6	10.7	34.4	34.4	10.4	164 人		
	10年以上～20年未満	37.1	16.7	11.4	11.4	23.4	0.9	10.7	30.8	30.8	8.1	223 人		
	20年以上	37.1	11.4	11.4	11.4	28.3	1.0	10.7	37.9	37.9	14.6	1,034 人		

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

文化芸術・スポーツの振興【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』（42.1%）、『女性』（37.0%）となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

文化芸術・スポーツの振興【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（57.0%）、『女性』（55.6%）となっている。いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(15) 文化芸術・スポーツの振興

		<重要度>					<満足度>							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
性別	全体	32.1	42.1	18.0	6.3	1.9	11.9	1.1	67.4	19.5	7.7	3.3	14.9	1,576 人
	男性	42.1	38.0	14.8	3.8	1.6	10.1	1.0	69.5	20.5	7.7	2.3	12.2	765 人
	女性	17.6	47.6	21.5	5.1	1.5	11.8	1.3	64.4	16.8	6.0	4.9	15.6	770 人
年齢別	20~29歳	42.1	38.0	14.8	3.8	1.6	10.1	3.0	29.1	21.5	5.1	6.9	8.9	79 人
	30~39歳	6.3	42.1	18.0	6.3	1.9	22.2	1.4	67.4	19.5	7.7	3.3	13.9	2.9 139 人
	40~49歳	1.9	32.1	42.1	18.0	6.3	11.9	1.0	25.1	38.0	7.0	5.0	19.9	199 人
	50~59歳	5.5	40.1	21.5	3.8	1.5	26.5	0.8	65.2	16.8	7.2	3.4	8.4	263 人
	60~69歳	2.1	40.5	21.5	3.8	1.5	28.6	0.9	66.9	16.8	7.2	3.0	13.6	405 人
	70歳以上	21.8	35.9	20.4	3.8	1.5	16.6	1.8	20.5	38.0	7.1	1.1	25.8	449 人
	職業別	農林漁業	11.0	37.4	20.4	3.8	1.5	25.9	2.0	66.3	16.8	8.5	2.5	13.6
商工業、サービス業、自由業など		7.9	43.6	18.0	6.3	1.9	14.3	0.5	69.6	19.5	10.1	2.6	13.2	189 人
会社、商店、官公庁などに勤務		3.9	40.7	21.5	3.8	1.5	28.6	1.2	21.4	38.0	5.1	1.6	15.5	561 人
主婦・主夫		14.6	43.4	20.4	3.8	1.5	16.3	0.3	22.5	38.0	6.3	1.3	19.2	302 人
無職		19.1	38.5	21.5	3.8	1.5	17.6	1.4	65.7	16.8	6.8	2.3	21.4	351 人
圏域別	高松圏域	10.4	38.0	21.5	3.8	1.5	24.8	0.9	21.5	38.0	6.4	1.6	13.4	763 人
	東讃圏域	9.0	40.1	21.5	3.8	1.5	24.1	0.8	66.9	16.8	6.4	1.7	11.7	145 人
	小豆圏域	9.1	40.1	21.5	3.8	1.5	24.1	2.3	65.7	16.8	10.3	2.3	11.4	44 人
	中讃圏域	15.7	38.0	21.5	3.8	1.5	15.5	1.6	65.7	16.8	6.5	2.5	18.1	432 人
	西讃圏域	12.5	38.0	21.5	3.8	1.5	16.7	1.6	65.7	16.8	7.3	2.5	17.2	192 人
居住年数別	3年未満	10.6	38.0	21.5	3.8	1.5	24.1	0.8	66.9	16.8	6.4	1.9	12.5	104 人
	3年以上~10年未満	6.7	40.1	21.5	3.8	1.5	24.1	0.8	66.9	16.8	6.7	2.2	9.8	164 人
	10年以上~20年未満	6.7	40.1	21.5	3.8	1.5	24.1	1.8	65.7	16.8	10.3	2.3	8.7	223 人
	20年以上	12.3	38.0	21.5	3.8	1.5	24.1	1.4	65.7	16.8	6.6	2.1	15.6	1,034 人

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

国際化の推進【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（33.5%）、『女性』（32.9%）となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『20～29歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

国際化の推進【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』（64.1%）、『女性』（65.7%）となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『女性』では【満足している】が【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では【満足している】と【不満である】が同率となっている。『20年以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(16) 国際化の推進

	<重要度>						<満足度>						回答数
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	
凡例													
全体	0.6	30.2	32.3	22.2	6.2	11.5	0.6	10.0	30.0	22.2	8.4	14.5	1,576 人
性別	男性	0.7	29.0	30.5	16.5	6.9	9.7	0.7	10.0	29.0	10.3	11.8	765 人
	女性	0.5	31.0	34.0	27.0	5.5	11.3	0.5	10.0	29.0	6.9	15.2	770 人
年齢別	20~29歳	2.0	27.0	32.0	22.0	7.6	6.3	2.0	10.0	27.0	5.1	8.9	79 人
	30~39歳	0.7	29.2	29.0	22.0	7.2	6.5	2.2	0.7	29.0	10.8	12.9	139 人
	40~49歳	0.5	31.7	30.0	22.0	7.5	6.0	3.0	0.5	31.0	10.1	5.0	199 人
	50~59歳	0.8	31.0	29.0	22.0	9.5	6.5	0.8	0.8	31.0	8.4	7.6	263 人
	60~69歳	0.2	30.0	29.0	22.0	6.4	9.4	0.2	0.2	30.0	11.1	12.3	405 人
	70歳以上	0.4	30.0	28.0	22.0	6.0	20.7	0.4	0.4	30.0	5.8	28.1	449 人
	職業別	農林漁業	1.7	28.0	30.0	22.0	5.0	10.2	1.7	1.7	28.0	13.6	13.6
商工業、サービス業、自由業など		0.0	30.0	30.0	22.0	8.5	7.9	0.0	0.0	30.0	11.6	12.7	189 人
会社、商店、官公庁などに勤務		0.9	30.0	30.0	22.0	6.6	4.0	0.9	0.9	30.0	9.1	5.3	561 人
主婦・主夫		0.3	30.0	30.0	22.0	7.6	13.6	0.3	0.3	30.0	4.6	17.9	302 人
無職		0.3	30.0	30.0	22.0	5.0	18.2	0.3	0.3	30.0	8.3	21.1	351 人
圏域別	高松圏域	0.9	30.0	30.0	22.0	7.2	9.8	0.9	0.9	30.0	8.4	12.7	763 人
	東讃圏域	0.7	30.0	30.0	22.0	7.0	9.7	0.7	0.7	30.0	9.0	12.4	145 人
	小豆圏域	2.3	30.0	30.0	22.0	4.5	9.1	2.3	2.3	30.0	9.1	9.1	44 人
	中讃圏域	0.0	30.0	30.0	22.0	6.3	15.5	0.0	0.0	30.0	9.5	18.1	432 人
	西讃圏域	0.0	30.0	30.0	22.0	5.7	11.5	0.0	0.0	30.0	5.7	16.7	192 人
居住年数別	3年未満	0.0	30.0	30.0	22.0	10.6	10.6	0.0	0.0	30.0	5.8	12.5	104 人
	3年以上~10年未満	0.0	30.0	30.0	22.0	10.4	6.1	0.0	0.0	30.0	12.2	9.1	164 人
	10年以上~20年未満	0.4	30.0	30.0	22.0	4.0	7.2	0.4	0.4	30.0	9.9	9.1	223 人
	20年以上	0.8	30.0	30.0	22.0	5.9	11.6	0.8	0.8	30.0	8.1	15.1	1,034 人

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)

多彩な地域づくり【重要度】について、

性別にみると、男女ともに「まあ重要である」が最も多く、その比率は『男性』(36.3%)、『女性』(36.9%)となっている。男女ともに【重要である】が【重要でない】を上回っている。

年齢別にみると、【重要である】は『60～69歳』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

職業別にみると、【重要である】は『商工業、サービス業、自由業など』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

圏域別にみると、【重要である】は『小豆圏域』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

居住年数別にみると、【重要である】は『10年以上～20年未満』が最も多くなっている。いずれも【重要である】が【重要でない】を上回っている。

多彩な地域づくり【満足度】について、

性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、その比率は『男性』(54.9%)、『女性』(56.9%)となっている。『男性』では【不満である】が【満足している】を上回っている。『女性』では【満足している】が【不満である】をわずかながら上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの年齢では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかの圏域では【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』では【満足している】が【不満である】を上回っている。そのほかでは【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(17) 多彩な地域づくり

		<重要度>					<満足度>							
		(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答	回答数
凡例														
性別	全体	11.0	31.2	31.2	11.0	11.0	0.4	13.3	37.7	13.3	14.0	14.0	1,576人	
	男性	9.5	33.0	33.0	9.5	9.5	0.7	15.0	35.4	15.0	11.4	11.4	765人	
	女性	10.4	30.6	30.6	10.4	10.4	0.3	11.9	39.1	11.9	14.5	14.5	770人	
年齢別	20~29歳	6.3	40.1	40.1	6.3	6.3	2.5	11.3	37.6	11.3	8.9	8.9	79人	
	30~39歳	5.0	37.9	37.9	5.0	5.0	1.4	12.9	35.8	12.9	5.8	5.8	139人	
	40~49歳	3.0	32.2	32.2	3.0	3.0	0.0	13.1	37.5	13.1	5.0	5.0	199人	
	50~59歳	5.7	37.3	37.3	5.7	5.7	0.0	13.7	35.4	13.7	7.2	7.2	263人	
	60~69歳	8.9	32.7	32.7	8.9	8.9	0.2	12.1	31.5	12.1	12.8	12.8	405人	
	70歳以上	19.8	29.6	29.6	19.8	19.8	0.4	10.1	31.1	11.1	24.1	24.1	449人	
職業別	農林漁業	10.2	29.7	29.7	10.2	10.2	1.7	13.7	32.0	13.7	11.9	11.9	118人	
	商工業、サービス業、自由業など	7.4	32.4	32.4	7.4	7.4	0.5	13.8	31.9	13.8	12.7	12.7	189人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	9.9	30.1	30.1	9.9	9.9	0.4	13.9	34.4	13.9	5.2	5.2	561人	
	主婦・主夫	12.6	29.1	29.1	12.6	12.6	0.0	12.0	32.6	12.6	17.5	17.5	302人	
	無職	17.7	29.6	29.6	17.7	17.7	0.6	12.0	34.0	12.0	20.2	20.2	351人	
圏域別	高松圏域	9.4	30.4	30.4	9.4	9.4	0.4	13.2	37.1	13.2	12.3	12.3	763人	
	東讃圏域	9.0	30.8	30.8	9.0	9.0	0.7	16.6	35.5	16.6	11.0	11.0	145人	
	小豆圏域	9.1	31.4	31.4	9.1	9.1	2.3	18.2	32.1	18.2	9.1	9.1	44人	
	中讃圏域	14.8	26.3	26.3	14.8	14.8	0.5	13.4	34.6	13.4	18.1	18.1	432人	
	西讃圏域	10.9	30.2	30.2	10.9	10.9	0.0	9.9	32.6	9.9	15.1	15.1	192人	
居住年数別	3年未満	10.6	30.3	30.3	10.6	10.6	0.0	14.4	33.8	14.4	12.5	12.5	104人	
	3年以上~10年未満	16.1	27.2	27.2	16.1	16.1	0.6	12.2	35.5	12.2	9.1	9.1	164人	
	10年以上~20年未満	6.7	30.4	30.4	6.7	6.7	0.0	16.6	31.1	16.6	18.1	18.1	223人	
	20年以上	10.9	30.1	30.1	10.9	10.9	0.6	13.0	31.7	13.0	14.3	14.3	1,034人	

グラフ単位：(%)

グラフ単位：(%)